…九年二月一日發行（毎月一回一日發行）

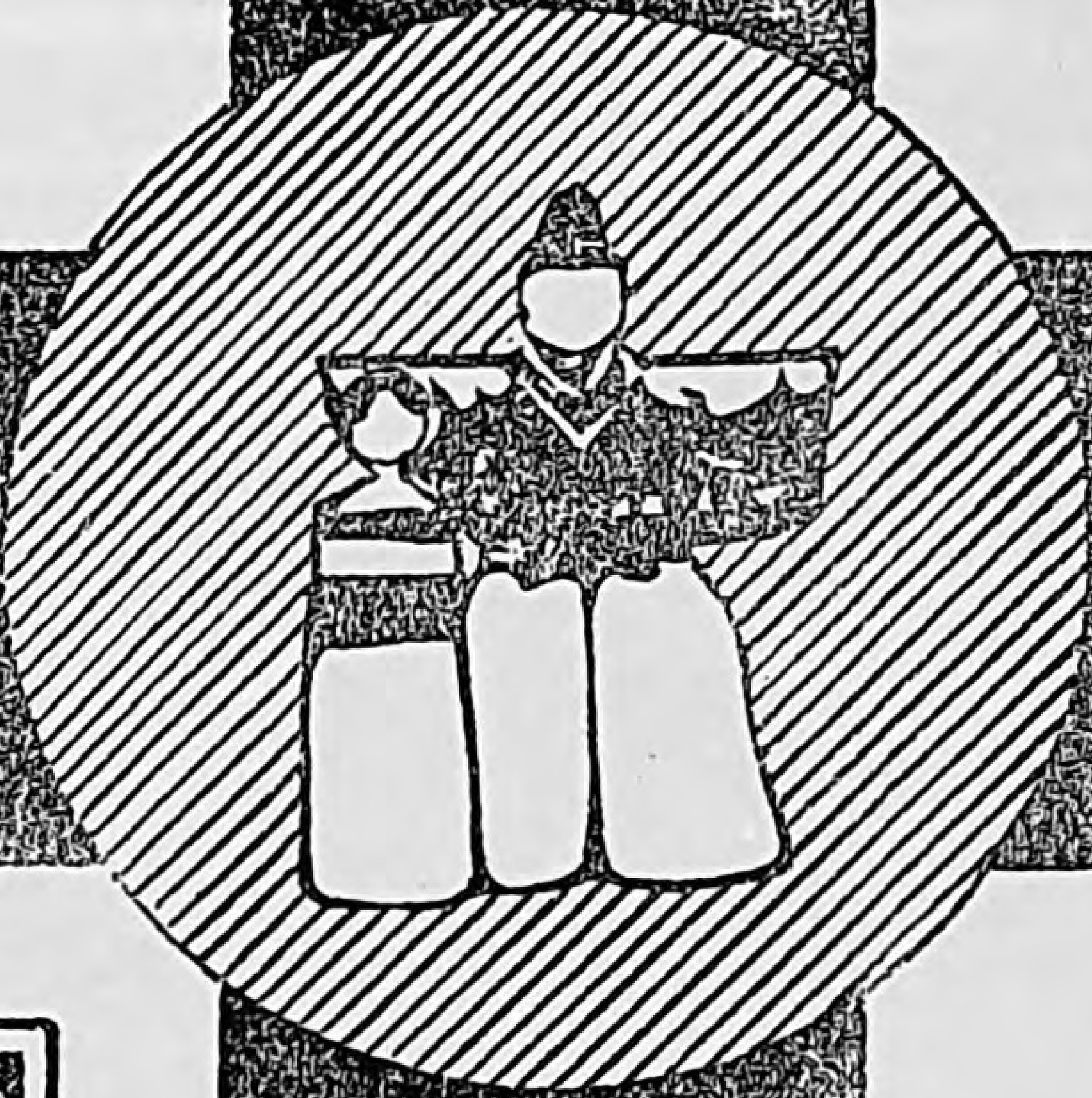
處女の友

二月

3巻2号

第三巻 處女會中央部發行 第二號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



白木屋呉服店

◎片側帯新柄陳列會　二月五日より

◎雛人形陳列會　二月二日より

◎全國名産菓子陳列會　二月二日より

◎東西大家小品展觀　二日より六日迄

◎又玄會主催諸名家餘技展覧會　十日より十四日迄

◎東西大家新作逸品會　廿日より廿五日迄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

二月の風は
一番肌を荒します

朝夕一滴宛お塗けになれば

絶對に肌アレしない

家庭化粧料

ホーカー液（えき）

羽二重のやうに肌をスベ〳〵
させて居れば白粉のノリノビも
善く思ふ様にお化粧が出來ます

定價	
小	二十五錢
中	五十錢
大	一圓

ホーカー化粧品本舗
東京神田和泉橋際
堀越嘉太郎商店
電話神田 一四三 一四四 一四五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女の友

二月號目次

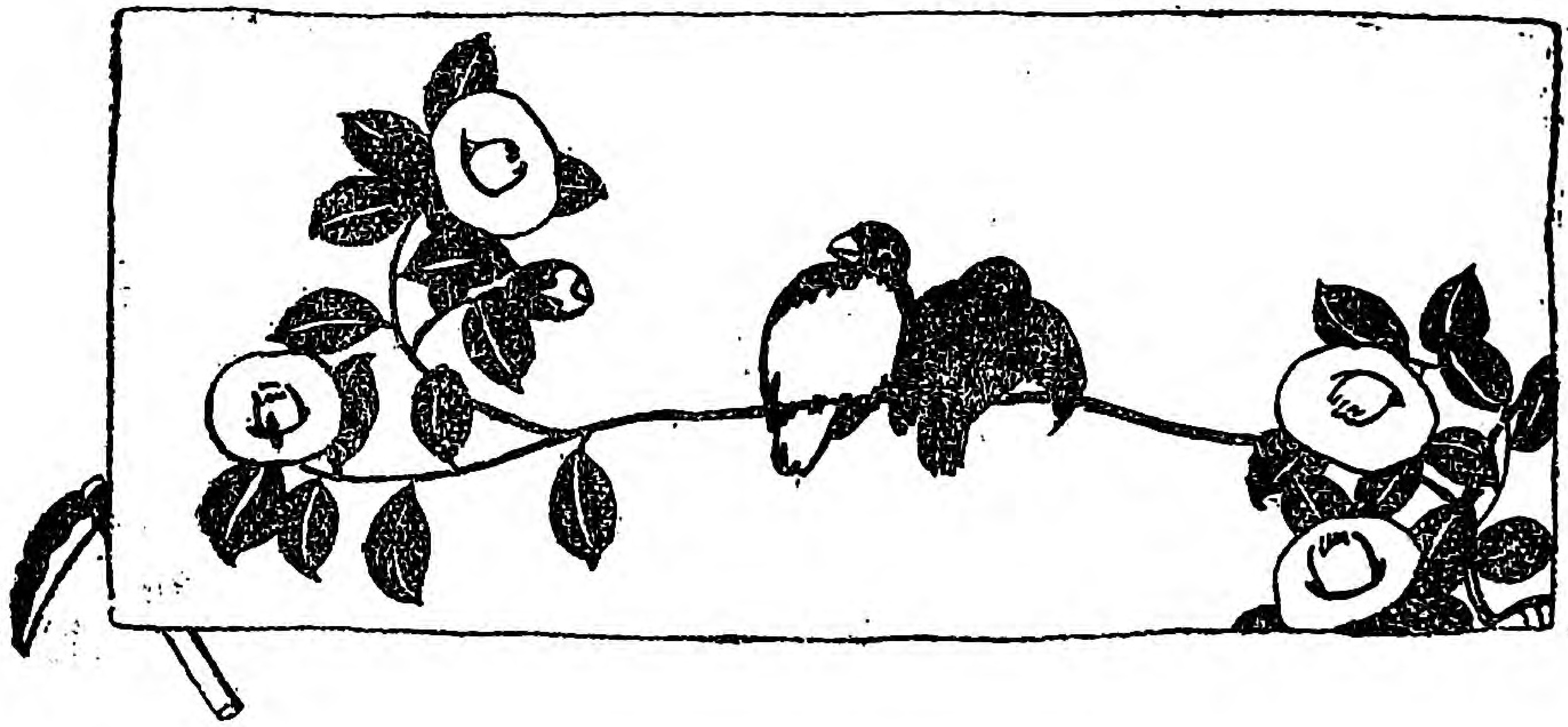
第三卷第二號

□表紙　夜なべ……田代紫光筆
□口繪　處女會訓／優良處女會……跡見花蹊筆

○記事

▽(卷頭)樂しいなぼくの家……一
▽田家早梅……二
▽赤毛布のねだん……四
▽髮を結ふに百二十圓……米國文學博士　東郷昌武……八
▽感心なおときさの話……本會理事　山脇房子……一二
▽養育院をみるの記……天野藤男……一六
▽「小草」より(一)……金澤甚衛……一九
▽なつかしい香川縣の讀者へ……二一
▽女學生の忠臣藏……二五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



▽描かれた娘……天野雉彦……二八
▽ことわざのわけ……三一
▽鄙ぶり……梅の家……三二
▽地方だより……三二
▽獨りをつゝしむ……福島縣須賀川實科高女敎諭 小林長吉……三五
▽都にあこがれて（其五）……白雲生作……三七
▽孝女白菊の歌……三七
▽鎌子と好子……四四
▽東京の人が暮らし方の改良……四六
▽私の村の處女會……四六
▽大正お猿づくし……四七
▽私の身の上は「房子さん」のやう……四九
▽全國處女會一覽（其五）……五五
▽お房さんは何を考へてゐるでせう……五七
▽保土ケ谷工場處女會發會式……五八
▽誌友名簿……六三
▽懸賞文藝考物……六四
▽編輯だより……六五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

賜天覽 台覽

好評六版

内務省囑託 天野藤男著

指導經營研究美績 青年團及處女會

内容充實、趣味饒多
統計確實、識見卓拔

定價貳圓五拾錢
郵送料拾八錢

特色!!!!

青年團體及處女會の組織内容美績等正確なる材料を豊富なる觀察に基き趣味深き筆を以て縱横に描出せるもので、青年團體處女會には一日も缺くべからざる座右の寶典である

十一版

親愛なる農村青年へ

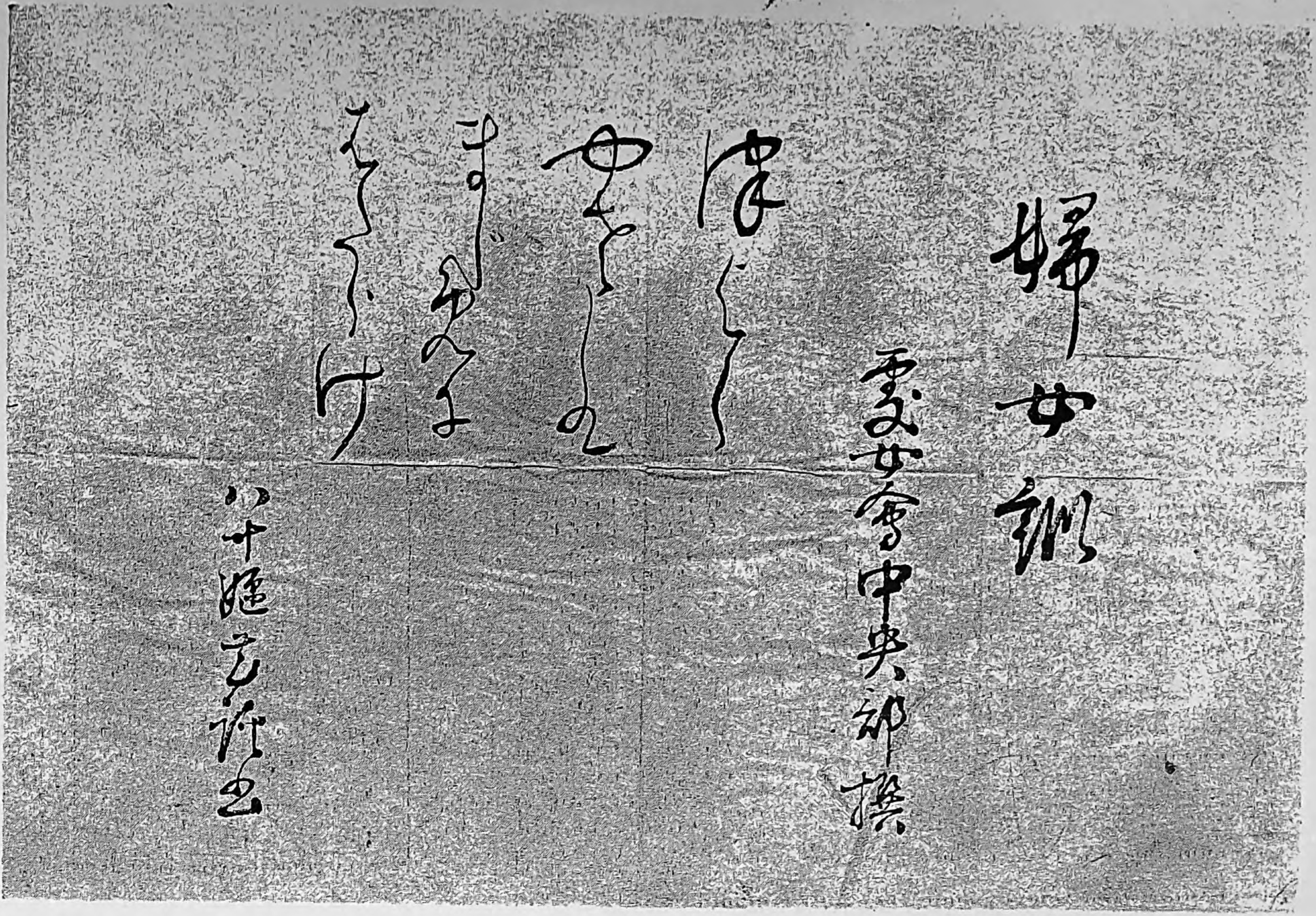
内務省囑託天野藤男著本版を重ぬる十一版以て其の内容の如何を知るべし

四六版二百頁
定價六拾錢
郵送料六錢

東京市本郷區元町 丙辰出版社 振替東京三三三〇〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

全國婦女訓



處女會中央部理事

跡見花蹊女史書

目ざめたる處女會

岐阜縣武儀郡坂ノ東村處女會

香川縣仲多度郡垂水村處女會（按摩講習會實地練習）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

うれしいなぼくの家

一

麥のごはんに　味噌汁そへて
家内にこ／＼　あさげのまどゐ
うれしいな　ぼくのうち

二

芋のごはんに　つけものそへて
みんなそろつて　夕げのまどゐ
うれしいな　ぼくのうち

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

田家早梅

空うらゝかに、吹く風も目出度く、千代田の宮居に冴え渡る、一月十七日午前十時、宮中鳳凰の間に於かせられて、宮中歌御會がとり行はれました。

御製

冬ながらかきねのくさももえいてゝ
たなかのいほの梅の花さく

皇后宮御歌

またきより梅さくいほのみゆるかな
すきもはしめぬ小田のあなたに

兩陛下の御歌を拜誦いたしますと、のどかなる田園の風情が、早咲の梅と共に、ゆかしく香つて參るのでございます。

冬ではあるが、新らしい年を迎へた野邊は、何んとなう春らしい氣分に蘇つて、田の水も温み、垣根

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

や野邊の若草は、春の惠みを吸ふてもえそめてゐます。ふと見渡せば、田中にほの見ゆる農家の軒端に早咲の梅がポッカリ浮び出たやうに咲き亂れて、日當りの椽には、老媼が子猫を相手に孫の衣など縫ひ、鷄の群の睦しさうに、餌を漁るのも見え、日はうららかに照つてゐます。

皇后陛下の御歌も早咲の梅の芳ばしき心を詠じさせ給へるものと恐れながら拜誦致しまする。また吹く風も寒く、氷も張り、霜もあつく農夫も田の仕事を休んでゐるのに、もう早咲の梅は藁家の軒先に咲きそめてゐます。勇ましい梅の花であると、仰せ出されたのではございますまいか。

梅の花は雪に霜に堪へて百花に魁けし、日本だけに咲く花でありまする ことは、皆樣の御承知の通りでございます。戰爭は終へましたが、是からが大事な時であります。わけても、野は御國の礎、男も女も、この早咲の梅の心を身にしめて、美しき中に、凜々しい決心をもつて、油斷なく、已が業務にいそしみ、世界各國に魁して戰後の經營を完成するの覺悟を研かねばなりません。平和第一年の歌御會の御題に、田家の早梅と仰せ出されました大御心のほどを服膺いたさねばなりません。

選歌

海ちかき小田のふせいは冬なから風さむからて梅か香そする　(京都府)村田ちか子上

むら山の雪にきほひて雪のことかりたのくろに梅の花さく　(愛知縣)相木　賢三上

世の春にさきたつ梅の初花は山田のいほのほこりなりけり　(茨城縣)栗山　太郎上

大根ほす田中の里は冬なから日かけかすみて梅の花さく　(岐阜縣)加藤　釣明上

よる波のひびきもけさは春めきてはまたのいほに梅かほるなり　(山形縣)近藤みよし上

朝日さすたふせのいほの梅の花かたえは春にのこしてやさく　(愛媛縣)後藤　守衛上

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

赤毛布のねだん

（一）赤毛布は上等

めつきり寒くなつたのと、流行風邪の用心の爲に、毛布を求めに、ある毛織物店に參りまして、いろ／＼見せて貰ひますと、物價騰貴は毛布類にも洩れず、五六年前とは大變な高價でございます。二枚つゞきの一番お粗末なのが、六圓六拾錢で、その上が八圓五十錢、その上が十圓五十錢、あとは限りなく上等なのがございます。

一番お粗末なのを求めましたが、毛布とは云へ、まざりものが多いので、さわりも惡るく、色も濁つて居ります。ふとその時、お百姓がはをつて、名所見物なんぞに參ります赤い色の毛布のことを胸に泛べましたので、

『赤いのもありませう、赤毛布が……赤は廉いでせう』

と何氣なく申しますと、番頭さんは

『いゝえ赤毛布はズットお高くなります、手前どもではあまりお客樣に賣り惡うございますのであまり仕入れませぬ、一番お粗末なのが是でございます』

といつて番頭さんの出してみせたのは、薄い粗い赤毛布でしたが、一枚のねだんが八圓五十錢といふに私は少しおどろきまして、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『ちや赤毛布の方が上等だね、お百姓の着る赤毛布の方が……』
『左樣ですとも、其は比べ物になりませぬ。』

(二) ちよいと赤毛布が

毛布を提げて家に歸りながら私はいろ〳〵考へたり感じたりしました。赤毛布といへば、田舍者の代名詞のやうになり、田舍の人の東京見物と言へば、きつと赤毛布をひつしよつてゐるところのポンチ畫がかかれます。赤毛布といふ言葉は、田舍の人を馬鹿にしたここで、無恰好でバンカラで、不體裁といふ代りに使はれて居りました。花の盛りの頃上野公園あたりを通りますと、赤毛布連が三々五々手を曳き合つて見えます、おてんばの女學生なんぞの中には、
『ちよいと、ごらんなさい赤毛布が……』
などと後ろ指さすものもございます。
そんなことに頓着なく、赤毛布は、紺の股引を穿き流行をくれの帽子を冠つてテク〳〵と歩るきます。女學生の笑ふのも無理はない、町のハイカラ紳士に比べると、赤毛布は無恰好であります、言葉もお國訛りが多うございます。

(三) 赤毛布はあたゝかい

然し私は、赤毛布の精神を尙びます。どんなに外面が無恰好でも、不體裁でも、赤毛布の本體の、まじめであり、清淨であり、潔白であり、正直であり、深切であることを、何よりたふとく感じます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

赤毛布をとれば、身體につけたは木綿のごく質素な着物で、肌着や股引は『わしや九十九まで』が夜なべに縫つたもの、こしらへたもの、粗末でも、溫か味があります。頸から弔した太い紐つきの財布は、祖先からの讓り物、ハイカラではないが、中には切れるやうなお札が一つぱい身動きも出來ません。其は町の或人たちの樣に、あぶなかしい儲けではなく、一圓札はお蠶の口から、五圓札はお茶の木から、十圓札は、お米からといふやうに、皆たふとい汗の結晶です。この淸いたふとい、勞働の結晶が、古ぼけた財布にみち〳〵てゐます。其をお臍のあたりに、後生大事にしまつて、掏摸の御用心に紐で首にさげてゐます。

その上を着物でつつみ、その上を赤毛布でつつむ。赤毛布はすべて、溫かさと、たふとさとの結晶であります。

(三) かけようと思へば金ぶちめがねが

赤は日の丸の旗の色、太陽の色、血の色、心持にたとへると、誠ともなれば、熱心ともなれば、深切ともなります。赤心、丹心とは、一心を言つたこと、兒島高德は、赤い心を墨でかきました。又赤は正直の心、まじめな心、してみると、赤毛布は、正直と勤勉と誠實との代名詞なのです。無恰好と笑はゞ笑へお粗末と笑はゞ笑へ。正直と誠實と勤勉にはまけないぞ。加之に、ここ數年は、お茶に、蜜柑に、養蠶にお米に、赤毛布は福々です、萬歲です。着物は粗末でも、西洋料理の食べ方は知らなくとも、實力ではまけませんぞ、着やうと思へば、お蠶ぐるみの着物も朝めし前です、かけやうと思へば、お米一俵賣れば十八金の金緣眼鏡がかけられます。

ありもしない財布を、あつたかぶりして、その上に、苦しい算段をしてお蠶の着物、その上に月賦のイ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ンバネスを着て誇つても、ほんとうに安心はなりますまい。そこへゆくとお百姓の赤毛布です。實力があります。心の中から溫いのですから、叶ひません。

(五) 赤毛布はお國の寶

然るに、近頃この赤毛布が段々滅つて來まして、田舍の人たちが、町の樣なインバネスを着、娘がよいショールをかけるやうになりました。お百姓の青年の金齒が急に殖えて來ました。自轉車も殖えて來ました、絹足袋が殖えて來ました。

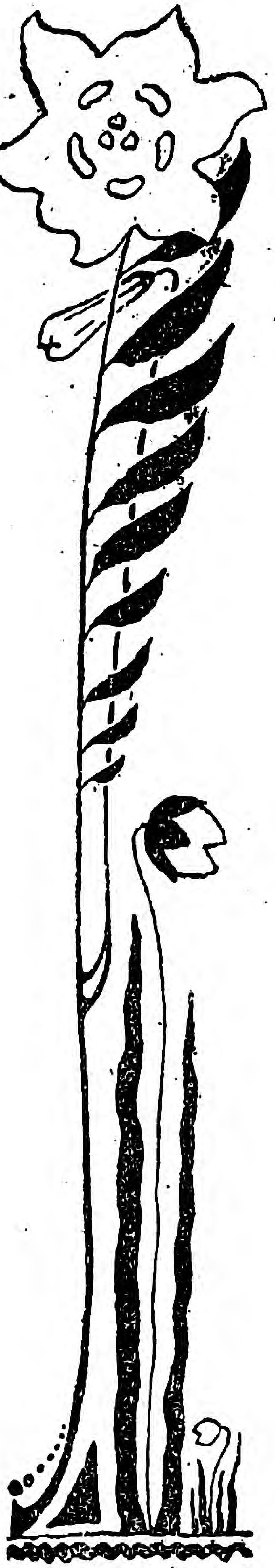
一方町の人は、この頃漸く虛榮の夢からさめて、生活改善を唱へ出し、虛禮廢止を噪ぎ出しました。結婚にお金をつかはぬやう、贈り物はよすやう、年始狀もよすやう、祝ひごともよすやうにと、華美好きな町の人が大變な變り樣です。田舍と町とあべこべの形です。

然し私は田舍の青年が、インバネスを着たから青年は墮落してゐると申すではありません、娘がショールを買つたからとて、農村の處女腐敗せりといふではありません。お白粉をつけるもよい。よい着物を買ふのもよい、然し生活の品位を高める爲にすることで、其れ以上に、着物を飾り、姿を飾り、生活を飾るようになれば、もう〱田舍は末です。傲るもの久しからずで、今にまた田舍が困つて來ます。

皆さんは、どこまでも、まじめと、質素とを生命としなければなりません。つまり赤毛布の精神を學ばねばなりません。どんなに世の中が進歩しましても、赤毛布の精神を膽に銘じて、心を進歩充實させ、形を質素簡略にする心がけが大事であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

髪を結ふのに百二十圓



米國文學博士
生活改善同盟會幹事　東郷昌武

（一）

こんど我々は文部内務兩省の重立つた人とも打合せをなし、朝野の有力なる方々の賛成を得て、生活改善同盟會を作り、二十五日をトし、その發會式を擧げたのであるが、その主旨は、我々のふだんの生活に無駄なことが少くないので、其等を一切改め廢し、時間と經濟との餘裕をつくり出して、其を有効に世の中の為に使はうといふので、會員は本誌の別項にあるやうな十八條の事項を守らねばならぬ。會員は徽徴をつけることになつてゐる。

（二）

生活改善は男女共に必要なことではあるが、殊に婦人の力に依らねばならぬことが一番多いのである。婦人は家庭の主人ともいふべき地位にあるから、主婦は固より處女たちの力を以て、舊い習慣や無駄なことはどん／＼省いて、すべてを文明式に改良してゆかねば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ならぬ。田舍にゆくと、誠に舊い習はしや、無意味なしきたりが行はれてゐる。迷信は殊に多く、之が爲に一家を亡ぼしたものさへある。此等は主もに御婦人の力で改良してゆかねばならぬ。近來處女會などが出來たから、團體の力で風俗を興してゆくようにしたいものである。一軒だけやつて他はやらないといふでは、とかくよい風俗を興すといふことは出來ない。

(三)

御婦人の生活の中一番お金と時間とかかるものは、衣服と髮のつくりである。殊に結婚等に際すると、身分不相應なお金を費すものである。先頃是は東京であるが、私の親戚の娘が二人結婚した、その結婚の當日髮ゆひと着せつけを賴んで、髮を結ひ、着物を着飾つた。それから三つ目にも來て貰つた。こう二日賴んであとで兩方で百二十圓支拂つた。是には食事代も入つて居らぬ、自働車代も入つて居らぬのである。少し華美にすると、百五十圓はかかるといふことである。

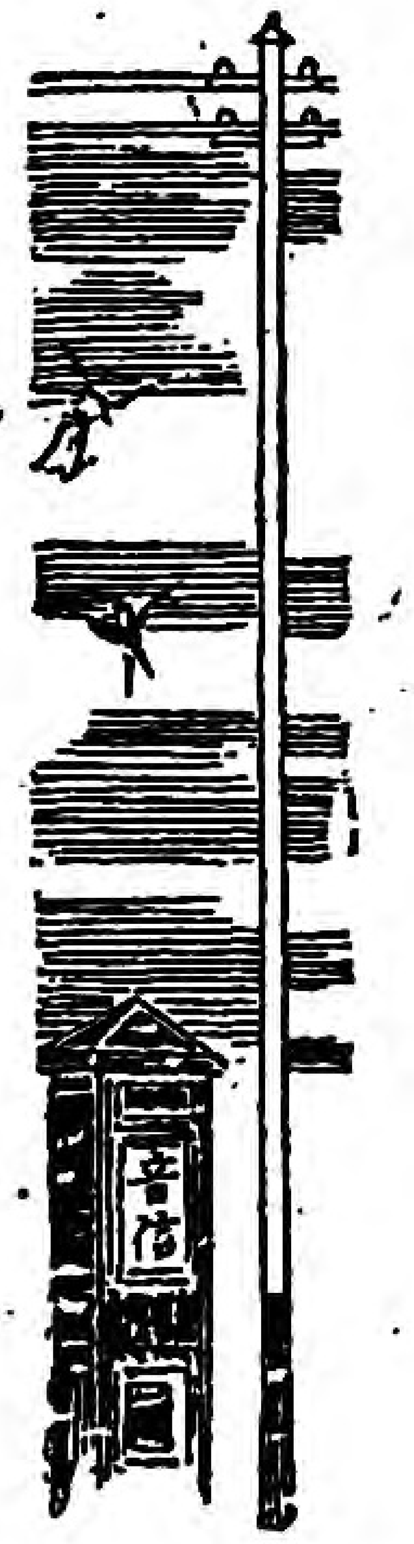
なんと皆さん、いかに一生の大禮とは言へ、自分の髮を結ひ、着物を着るのに、こんなにお金を費すとはなんといふ無駄なことでせう。然し是を改めるには、他の婦人たちが髮の具合や着物の着こなしが上手とかどうとか批評し合ふことをも改めねばならぬ。女は人の噂や評判を氣にするものであるから今の所已むを得ないのであるが、是からの婦人は、さういふうはべを見たり評判したりせずして、心の中が飾つてあるか、頭の中が飾つてあるかといふことに氣をつけ、髮なんぞは、自分で結ふ位にしたいと思ふ。今でもたしなみのよい婦人は、自分で結ふ、女學校でも髮結ひ方を習はせてゐる所が多い、自分の髮を自分で結ふのは、何よりの身だしなみである。ゆく〳〵は結婚の時にも、束髮にでもあつさり結ふてすますようにしたいものである。女の髮はどれほど時間を無駄にし、お金を費すものかわからぬ。

(四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

其のみならず、髮ゆひを家に入れると、家の中のいろ〳〵のことを方々に弘めることになり、家庭の平和を害することもある。勿論一家の中には、秘密はない筈、他に知れて悪いことはない筈であるが、其を誤つて傳へるから困るのである。甲から乙へ、乙から丙へ順に間違つて傳へられて、しまひには、互に仲たがひするようになるのである。

どうか自分のまわりのことは、一切自分ですますといふことにしたい。其にはこういふ習慣を娘時代からつけて置くことが一番大事である。生活改善は地方にも及ぼしたい、處女會婦人會などは既に實行してゐる所もあるが尚本會とも連絡を取つて盛んに宣傳實行して欲しいものである。既に地方からの入會申込者も大分多いのである、將來は地方に支部をもつくりたい考である。



□私の村の風俗改善同盟會

靜岡縣濵名郡吉野村長　北村電三郎氏（談）

東京では今度生活改善同盟會が出來たさうでありますが、私の村では明治三十一年に村の風俗を興し、家庭生活の向上を圖る爲に、風俗改善同盟會を興しました、之が本になり私の村も内務大臣より優良村として表彰せられるやうになりました。同盟會の實行事項は左の通であります。

一　教育勅語の御精神を服膺し忠孝の大義を發振すること

二　節義道德を强固にし、常に親睦共和を旨とし公益を圖ること

三　各自力相應のことをなし節約して子孫の幸福を思ふこと

四　不幸の境遇にあるものを同情して救ふこと

五　何事も一致共和の歩調を取つて事を成すこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

模範處女

感心なおときの話

山脇高等女學校長
本會理事 山脇房子

【一】

おときは表具やの娘であります。彼女の生れた頃は、まだお父さんは何うかかうか店をはつて、得意の仕事をいたして居りましたが、おときの五つ六つになる頃から、すこし可笑しなことを云ふやうになりました。

お父さんは、發作的の精神病にかかつたのでありました、お父さんが不意に仕事の手をやすめて、ハヽヽヽと笑ひ出す度に、お母さんはおときを緊乎とかかへて、

『お父さん確乎して下さいよ、おときが可哀さうじやなりませんか』と、つきつける樣に云ひますと、お父さんは『ア、おとき、おとき』と、おぼろにも我娘の名を呼んで、夢からでも覺めたやうに、仕事にかかるのが常でありました。

【二】

おときの八つのとき、お母さんは不圖したことから眼を患ひつきました。おときは、お父さんがあの通り仕事もろく〳〵しないのに、此上お母さんに盲目にでもなられては大變だと、子供心にも出來るだけの看護をいたしましたが、段々惡くなるばかりで、回復の見込はつきませんでした。おときは小さい胸を痛めましたが、別によい智恵も出ません。一生懸命に神樣に祈りました。朝は御飯焚から拭掃除までするのですから、暗い内に起きて神詣りをいたします。

或朝おときが、いつものやうに神詣りから歸つて來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ますと、その跫音をききつけてお母さんが『おときや、おときや』と待ち兼ねたやうに呼びますから、おときは『ハイ〳〵只今』と云ひながら、臺所の戸をあけて、お母さんの枕元へ行きますと、お母さんは顔をあげて、

『おときや、私はもう目が見えなくなりましたよ、そこに居るお前の顔さへ見えないよ』と泣くのであります。

『お母さんほんとうですか』と、おときは自分の顔をお母さんの顔にすりつけて、涙ながらに申しましたが、全く見える樣子もありません。

『まあ……お母さん何うしたことです』と云つて、身を震はせて泣きました。夫れからと云ふもの、おときはお母さんに代つて、家事一切を働かなければならなくなりました。

模範工女

北村みつ子（三十三年生）

東亞綿絲工業株式會社

【三】

かゝる中に育てられても、流石に表具やの娘で、常は文人墨客の書いた軸物などを見て居りますから女でも文字だけは學ばねばならぬと云ふ事に氣がつきまして、仕事の忙しい間にも、近所の師匠のところへ通ひ、一生懸命に勉強して居りました。

お父さんも、一時よりは病氣がよくなつた樣であります。家族を大事に仕事を勵んで居りますから、盲目になつたお母さんも之をせめてもの慰みに『お父さんがあしてよく働いて下さるから』と云つて喜んで居りました。此處でま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た一つ困つたことは、おときの十三になるまでに、盲目のお母さんは二人の子供を生んだことであります。十三の少女は、いよ〳〵多忙の身となつて來ました。二人の妹のためにはお母さんともならねばならず、お臺所も働かねばならず、お父さんの手傳もせねばならず、體が幾つあつても足らぬ程になつて來ました。

『おときさんは可哀さうだ、よく働く』と近所の人々はいつでも噂をするのであります。子供が云ふことをきかぬと、

『おときさんを見よ』と叱られるのは、近所の子供達でした。

盲目になつたお母さんは、段々性質が變つて、氣短かになり、少しでも自分の氣にいらぬことがあると、

『さうもお前が邪魔にするなら、私は死んで了ふから可いよ』と罵ることが時々ありました。その度おときは、

『まあお母さん何を仰有るのですか』と、態と輕く笑つて、機嫌をとるのでありますが、お母さんはなかなか承知しないで、泣いたり罵つたりするのであります。

おときは又乳呑兒の妹を背負つて、お父さんの手傳ひにお得意をまはり、歸つて來てはお母さんの世話をするのであります。漸く十三になるおときが、このやうに働くのを見ると、可哀さ氣の毒さで、あゝすまない〳〵がもとで、お父さんは又狂ひ出しました。お父さんは、お母さんが盲目になつて何も出來ぬに、おときを口穢く罵るのを見ますと、遂に見兼ねて、

『我が兒とは云いながら實に勿體ないぞ、拜んでゐろ』と神妙に云ふかと思ふと『左樣だ〳〵、拜んだ拜んだ』と室中を騷ぎまはるやうなこともあります。

おときは『お父さん確乎して下さい、お母さんがあんなですのに、此上お父さんまでが御病氣にでもおなりだと、私や妹はどうなるのでせう。お父さん〳〵』と、おときが泣きすがりますと、お父さんは夢からさめた樣に泣きながら『ム……』と鎭まりましたが其内に段々鎭まらない時代が來ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

【十四】

其内お父さんは、お酒を飲み始めました。初めはホンの少しづゝ、盲目の妻の枕もとで、哀れな妻を慰めながら飲んだのでしたが、段々と量が多くなりおときが十六の春を迎へた頃は、仕事はろく〳〵せず、お酒ばかり飲んで居るやうになりました。

おときの顔を見ると『オイ酒を買つて來ないか』と催促するのであります。

『買つて來いと仰有つても、もうお錢がないではありませんか』と、傍から盲目のお母さんが云ひますと、お父さんは『なに無い？　無ければ借りて來い。持つて來ないと承知しないぞ』と云ひ、どうしてもお酒の香を嗅がない中は治まらないのですから、おときはいろ〳〵工夫をして、お酒を買つて飲ませるのでありま す。

お父さんがお酒を飲んで仕事をしないやうになりましたから、おときは煎豆を拵へて、それを町内に賣つて歩きました。おときは小さい妹を背負つて『煎豆〳〵、煎豆はようございますか』と賣つて歩きます。

すると、

『そら孝行娘が來たから豆を買つてやれ』と、彼地からも此地からも、買つて呉れるやうになりました。

おときは豆を賣つて歸ると、先づお父さんにお酒を買つて、それから臺所のものを買ふのであります。

お父さんの病氣はいよ〳〵激しくなりました。夜更けてから裸體で町に出て、あてどもなく罵るやうになりました。するとおときは、泣く〳〵このあとを追つて出て、

『お父さん氣を鎮めて下さい、おときです』と云ひますと『ムーおときか』と云つて氣の毒さうに手を引かれて歸るのであります。氣は狂つて居ても、流石に親子の情はふしぎなものではありませんか。

かういふ不幸な中に育つても、おときは少しも愚痴を云ひません。せめてお母さんの眼が、見えるやうになり、お父さんの氣が鎮まつて、二日に一度でも仕事をするやうになつて欲しいものと、祈らぬ日はありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

せんでした。

【五】

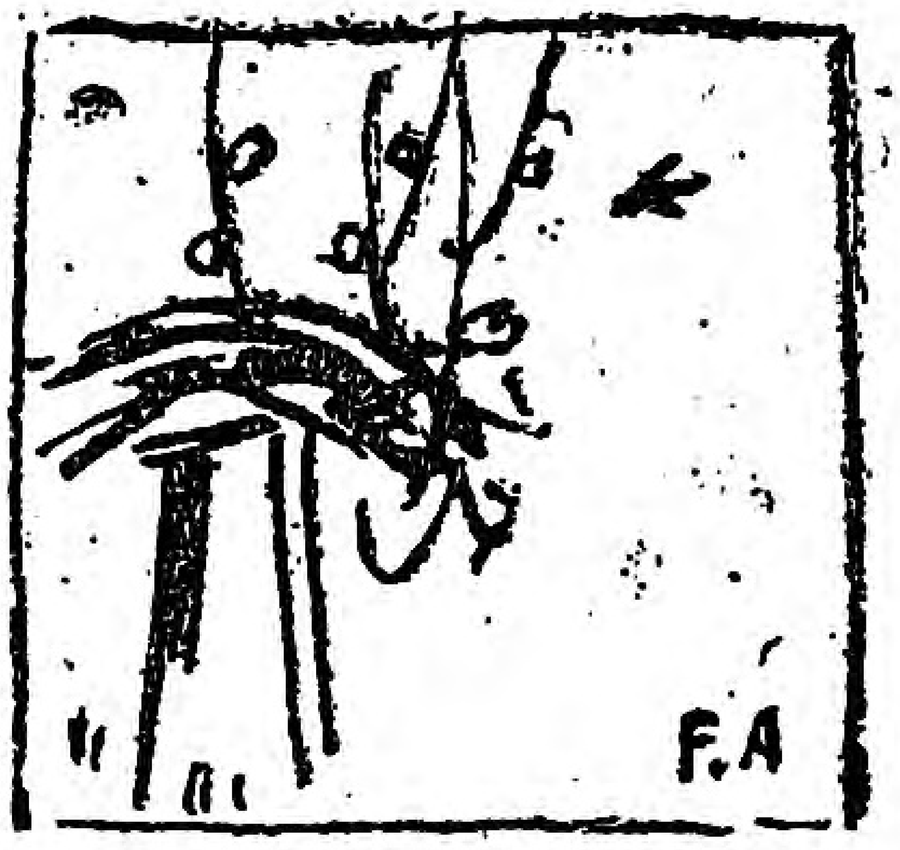
憂きことのなほ此上につのれかしかぎりある身の力ためさんといふ歌がありますが、かうも涙の上に涙のふりかかるのは、實に可哀さうであります。ですけれど、感心なことには、おときは少しも心を屈しないで、父母の介抱、妹の世話、夫から豆賣の行商を怠らずにいたしまして、一家五人の生命をつないで居ります。

この噂が郡役所に聞えて、おときの十七のとき郡役所に呼出され、褒美をいたゞくことになりました。さてこのやうにお上から御褒美をいたゞいたことや、あの娘は孝行ものださうなといふ評判が、近所、近邊に響きましたから、自然と何くれとなく世話をして呉れる人々が出來まして、今では父母の看護と、妹たちの世話に、一身をさゝげて居るといふことであります。

北村みつ子さん （十二頁の寫眞）

北村みつ子さんは、東京下谷入谷町の方で東亞綿絲會社の模範女工さんとして、ごほうびをいたゞきました。大正二年一月十七日に會社に入り、今まで一日も缺勤したことがありません。お家はお父さんとお母さんと二人の弟さんと二人の妹さんの七人暮らしでありますが、一家の暮らしは主もにみつ子さんの收入で支へて居ります。家庭は圓滿で風波の立ちしこともなくみつ子さんは朝から晩まで工場でつとめ、家へ歸りますと、よく父母に仕へ、弟妹を愛しいたわります。會社には小さな女工が大勢ゐますが、みつ子さんは、其等の人を深切にいたわり、面倒みますので大勢から姉さんのやうに慕はれて居ります。會社は勿論近所の評判の娘さんです。お嫁の口もたくさんありますが、お家の爲といつてまだひとり身で居ります。それで品行の正しいことは、誰一人悪い噂を立てるものもないのでわかります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



養育院をみるの記

……浮世の裏、悲しい人たちのあつまり……

天野藤男

□ゆきだをれが多い

松は明けたが屠蘇の酔のまだ都大路に殘つてゐる十一日の日曜日に、小石川の養育院を訪れました。此處は東京市が一年に三十萬圓もかけて、(一)病氣などで往來に仆れた人、つまり行き倒れや(二)食べてゆくことの出來ない貧乏人や、(三)馬鹿や啞や、(四)棄て兒迷ひ兒などを無料で世話する病院のやうな又學校のやうなところで、現在これらの可哀相な人が一千八百人ばかり入つて居ります。此中一番多いのは、行き倒れで、三分の二はこれださうです。

□運命のしわざ

『御一家御揃ひ御無事にて』とか『皆々樣御達者にて』とかいふことは、手紙の上で誰もかき、又他人から來た手紙にはよくかいてあります。別にさうお目出度いことゝも思ひませんが、よく考へてみますると、親子兄妹ひとつ家に居つて、丈夫で、機嫌よく働いてゐるといふことは、まことに仕合せな目出度いことであるのです。養育院をみまして、一層深くこのことを感じました。

誰が惡くゝてわが兒を棄てませうぞ。誰が好き好んで馬鹿な子を產みませう、啞の子を生みませうぞ。誰

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が好んで貧民になりませう。誰が道樂に、往來に行倒れとなりませうぞ。中には、大酒をのみ、賭博に耽り怠けた爲にこうした悲しい境遇に陥つたものもありませうが、其はほんの僅かで、大ていは、運命です、自然とさうした運命に陥つてしまつたのです。

□大ていは年より

一千八百人の中二百五十人は病人で、男が三室、女が二室、小兒が一室、合せて六棟の病室に分れて收容されてゐます。

外はうらゝかな日和でしたが、病室の中はうす暗く藥の匂の混つたじめつぽい空氣がみち〳〵てゐます。最初に入りましたのは、男の病室で四十人ほど、みな老人です、一ばんの年上は八十六歳とか、仰向きになつて眼を瞑つてゐる頭のまつ白な年寄もゐれば、起きてうつ伏して泣くやうに考へ込んでゐる、頭の光つた老人もゐます。白い床、白い夜具。藥罎が淋しく枕下に措かれて、窓から射す鈍い夕日に、かすかに光つてみえます。

老病か、脚氣か、心臓病か、脊髓病か、いづれにもせよ哀れなのは、ゆく末短くして老ひたる人の運命である。あゝこゝにゐますお年寄りに子供はないか、孫さんはないか、身内はないか、あれあの隅の老人は、苦しさうに呻つてゐるものを。

私は何んとも言へない氣持になつて、次の部屋にゆきました。

□良家の奥さんもゐる

「此處が女の病室」と案内されて入ると、女も大抵は年寄です。痩せ衰へた枯枝のやうな手を胸にあてゝ、あれあの顔の淋しさ。眠つてゐるのか、苦んでゐるのか、一人は横になつて自分の手で頭をかきむしるようなまねをして、苦しさうに呻つてゐました。其處へ白衣の看護婦が來て深切にいたわる。胸をさする。藥をふくませる。

私は看護婦の仕事のたふといものであるとを、しみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

（注）頁右上、原本において文字が欠落（不二出版）

感じました。親でも子でもない赤の他人の汚れもの丶世話まで、年が年中のつとめ、世にこれほど神聖な職務があらうか。殊に若い看護婦をみる度毎に、何んとも言へない心持になります。

上品な奥さんらしい婦人もゐました、雑誌をよんでゐました「お寒うございます」と申しまするとていねいにお辭儀しました。聞けば、良家の奥さんで、不仕合せの爲に此處に淋しい月日を送つてゐるとか。

□生れた子に何の罪

子供の病室へゆきますと、ヅラリと列んだ寢臺に、乳呑兒から三つ位になる赤坊が三十人ばかり、赤坊に貴賤上下の別はない、みな愛らしい天使の樣ない丶子です。乳首をチユウ〱と吸つてゐるのもあれば、オギヤ〱と泣く子もあります。床の上でお玩具をもつて、にこ〱してゐる子もゐます。あ丶可愛ゆい子よあ丶そなたの父はいづこ、母はいづこ。こんな可愛ゆい子を棄てる親の心は鬼か、蛇か、いえ〱鬼でもない蛇でもない、矢張人の母です、人の親です。憎ければ棄てません、可愛ゆいからこそ泣いて棄てたのですを丶につこり笑つて、何がをかしい？私が父ちやんに似てゐるのか、手を出すとしつかり握りました。その手は溫かでした。

『この子はせむしです』

青白い顏して床の上に立つた三つ位な子は、丈は一尺もない位、あ丶生れながらにしてこうした不具と生れた哀れの子よ。を丶そなたは、目が惡るいのか、こんない丶顏をしてゐるのに、聞けば、生れながらの梅毒性とか、兩方の眼の玉が蠟のように白い、あ丶生れた子に何の罪があらうか、愼むべきは、親である。

若い看護婦が此處でも、深切に脈をとつたり、お藥をのませたりしてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「小草より」（一）

詩集「小草」は、中央慈善協會に奉職して居られる金澤甚衛氏とマツ子夫人とが、長男の信さん(四つ)を喪はれた悲しさを「路傍にノートを展き枕頭にペンを執つて」書かれたものです。純眞な深い〳〵親ごゝろが實によく現はれて居りますので、著者に請ふて其の數篇を轉載させて貰ひました。

悲しき日

「もう一言
たゞ一言でもいゝから聞きたい」との母の祈りはきかれた。

二十餘時間意識のなかつた子供が、
迫りせまつた呼吸のなかで
「ねんね、ねんね」と云つてくれた。
おゝ、ねんね、ねんね
父は聲をあげて感謝した。
母は顔を掩ふて泣いた。
おゝ、おゝ
永い永いさめないねんね。

墓

花よ
さま〴〵の花よ。
お身を折る手をうらんでくれるな、
私はかたじけない心をもつて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

神様とお身には感謝する。
子供のお墓を飾りたいのだ
お身は美しく咲いてくれ、
人の世を美しくするために。

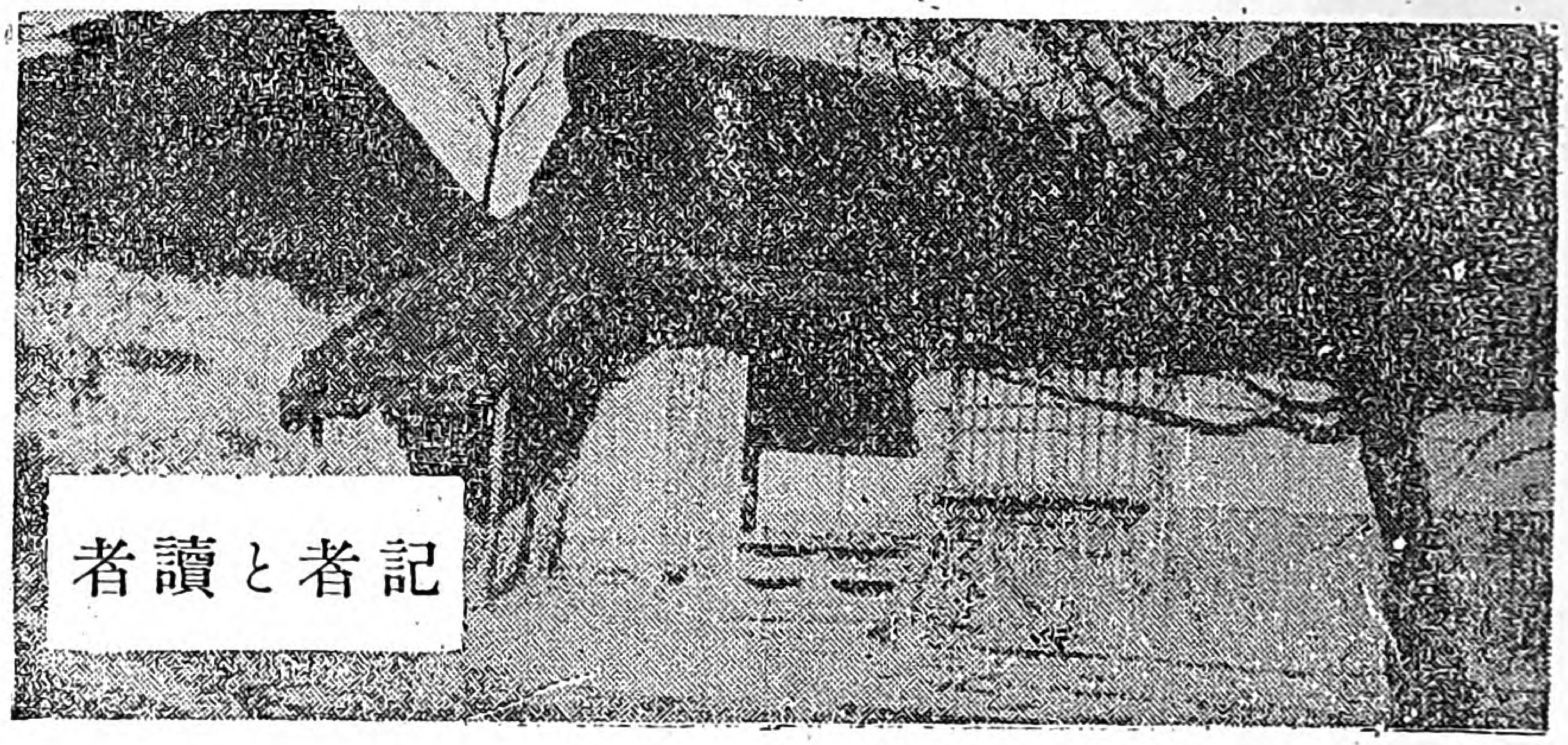
思ひ出

雪が降る
面白いように雪が降る
マコちゃんが今日も居つたなら
このまつしろいものを嘸喜んだらう。
去年や一昨年は赤ン坊でなんにもわからなかつたの
だ。
さうだ、
今年は白を青と間違へて居たのだから、
きつと「青いねエ」と云つたらう。
そして、お父さんやお母さんがそれを笑ふと、
自分もわけは分らずに一緒になつて笑ひ轉けて居た
だらう。

雪

雪が降る
雜司が谷の墓地では、
新らしい墓も、古い墓も
大きい墓も、小さい墓も
うちの信の墓も、隣りにある同じ日になくなつた
幼兒の墓もみんなこの雪を被つたらう。
墓守よ、箒をおいてお呉れ、
そのまゝで、おゝ、そのまゝで美しい日の照るように。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



なつかしい香川縣の讀者に

香川縣〇〇村の某子からこういふおたよりがありました。

あゝ人間に生れながらこの處女の友を、我が身まゝにならない為十分に讀んだことがありません、年を言へば、はづかしい二十歳、はがき一まいもかいたことがなければ、エンピツでこんなことをかきました。

お金が後になつて記者様へ今までのことおことわり申しようがございません、お許し下さい。一月號の中に「四國の田舍の娘さんへ」まことに、私は縣こそちがへど同じ四國今は娘でないが、

◈父母様や夫様妹弟様◈

もあります、明けても暮れても、山に働かなければならない女でございます。處女の友を讀める日を、生みのお母さんに顏合せが出來るようにまちかねます。

私は今年からいよ〳〵女らしく働き、妻らしくつとめ、こ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れからの小さい小供さんに、よい教育をさしてあげたいように思ひます。上書は人のお手をかりました
さよなら。

〇〇より

記者様へ

〇〇子さん、あなたのおたよりは、私の心を動かしました。あなたも、四國の娘さんのやうに、田舎に生れて、田舎に暮らしてゐらつしやる、エンピツでけつこう、何のはづかしいことがありますか、ハイカラな巻紙に、萬年筆でかいたとて、まごゝろがこもつてゐないならば、そんな手紙は何んにもなりませぬ。弟の雑記帳を破つて、あんごんの火で、鉛筆なめ〳〵かいた片かなまじりの手紙でも、まじめな女のかいた、まじめな手紙ならば、其こそ名文です。たふといものです。紙や、筆は、ほんの心をうつす道具に過ぎません

どこまでも、まじめな〇〇さん、私はあなたのその心持をうれしく思ひます。二十歳となつて、はがき一枚もかいたことがないとは、ほんとうでせう、お家の都合で、小學校を中途でやめたのですか、それとも、學校は卒業したが、家の仕事が忙しいので、筆がとられぬといふのですか、然しよくこうしておたより下すつた。學校へゆけなかつたのは、あなたの罪でない、さういふお家に生れなすつたのが、あなたの不運、いえいえ、さう思つてはなりません。何事も運命です。

學校へゆかなくとも、むづかしいことを知らなくとも、心が正しく、優しく、まじめであれば、其が何よりの學問です。孝行です。あなたは、何も知らぬ、はづかしいと仰言る、そのお心が、たふとい、なまじつかのことを知つて、威張つて、自慢してゐる女に比べるとどの位たふといかわかりません。どうか、生涯このへりくだつたお心を忘れぬやうに、さうしてまたふだんに少しでも暇がありましたならば、讀み書きそろばんをおならいなさい。

お金が後になつて……いえいえ、實を申すと、あなた方には「處女の友」なんど、無料で毎月あげたいの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

です。さうして讀んでいたゞきたいのです。十五錢といふお金を稼ぐには、容易なことではありません。いくら田舍が景氣がよいと申しても、一錢のお金も天からふつて來よう筈がありません。一本のお大根も五錢か六錢、それまでに丹精するのには、どの位汗と力と血とをそゝいだことでせう。と思ふと、あなたから、一ヶ年分一圓六十五錢いたゞいたことは、ほんとうにすまぬことに思ひます。お金持の百圓にも千圓にも當ります。私はいつまでもその爲替をみつめてゐましたそしてあなたが、郵便局に出しにゆかれる樣子や、又鉛筆なめ〲して、臺所で手紙かゝれる樣子を想像してなつかしくなりました。

〇〇子さん、然しあなたはお仕合せです。「今は娘でないが」と仰言るところをみますと、もうお嫁入りなすつたことゝ思ふ。夫樣はどういふ方？おいくつ？青年會に入つて居られた方ですか、さぞあなたのやうにまじめな方でせう。私はやさしいあなたの夫さんになられた方は、お仕合せと思ひます。あなたがやさしいから、夫さんもきつとやさしくあなたをもてなすでせう。仲むづましい家庭こそ人生一ばんの仕合せです。

それにあなたの嫁入つたお家には、お舅さん、お姑さんもゐらつしやる。お仕合せです。可愛ゆい息子さんのつれあひのあなたですもの、にくからう筈がないゞゝ、それに、お年寄は、少しはやかましいのはあたりまへのこと、やさしく、深切にお世話してあげて下さい。親孝行し過ぎて後悔したといふ人はありません。「妹弟樣もあります」とか、妹や弟に、樣をつけたところ、そこに、あなたのつゝしみ深い、まじめな、へりくだつた床しい心がみえます。旦那の妹さんはおいくつ、弟さんは？年頃ですか、それともまだ子供ですか、いづれにもせよ、よく可愛がり、面倒みて下さい。小姑は鬼千疋なんぞと申しますが、其はお互の心のつゝしみが足らぬからのこと、心と心とを溶かし込んで仲睦まじくして下さい。年頃の妹さん、弟さんであつたらば、あまりこごとを言はずに、世話も燒かずに、自分で自分をひきしめるように、仕向けて下さい。この頃

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の若い人は、命令や、こゝとだけでは、駄目です。へい／＼と口でいつても、心の中で笑つてゐては何んにもなりませぬ「やさしいお姉さんだ」「なんにもこゝとを言はないが、こわいところがある」といふやうでなければなりません。

「これからの小さい小供さんによい教育をし」もう赤ちんがありますの？羨ましいこと、やさしいまじめな御夫婦の中に生れる赤ちやんは、きつと／＼桃太郎のようによい子でせう。強くやさしくまじめに働くよい子に育てゝ下さい。お雨親さんは、早く初孫の顔がみたいでせう。私もみたい。東京で寫眞がとれるものならば、あなた方の平和な家庭をうつしたい、あなた方がお二人伴れ立つて山にゆかれる後ろ姿を。

「處女の友」を生みのお母さんのように待つて下さるなんとうれしいことでせう。「處女の友」を出しますにはお金が入ります田舎向きの雑誌ですからなか／＼勘定が足りません。然しあなた方のように熱心な讀者がある爲に、私どもは、心強く働いてゐます。鍬とらぬでも、鎌とらぬでも、あなた方と心もちはひとつ、兄妹だと思つて萬事相談して下さい。何でも打ち明けて下さい。まじめなことに、はづかしいことはない筈、何でも御相談して下さい。

然し〇〇さん、あなたのほんとうの働き振り、心づかひは是からですよ。是までは、山の麓です。是からが大へんです。樂しみも多いが苦勞も多いのです。平らな道と思つてはいけません。坂道です。然し之を切り抜けてゆくのがあなたのつとめ、心をしつかりと、末をたのしみに、進んで下さい。まだ寒さも去りませぬ、惡い風邪がはやります。御大事になさいませ。

（あ生）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

女學生の忠臣藏

（一）

群馬縣の鳥の郷の婦人會員のお宿をして下すつた大妻女學校の寄宿舍が、姉妹會にかねて年の暮の記念會を開くから來て欲しいといふことなのでどんな趣向があるかと、いつてみました。この學校の生徒は、地方婦人會員に、一枚づゝ夜具を脱いで借して下すつたことでも一般がわかるように、深切で、情愛に富んでゐます。從つて寄宿生は姉妹のよう。内々では先生をお父さん、お兄さん、お母さん、お姉さんと呼んでゐます。

三十疊敷の日本座敷に七十二人の姉妹たちが車座に（部屋が狹いので車の輪が二重三重になりました）坐つて、先づお蕎麥におすしの御馳走、ほかにお菓子やら蜜柑やらたくさん。

（二）

その夜の會の次第は

一　お父さんのお話（校主大妻良馬氏）
二　お母さんのお話（校長大妻こだか女史）
三　お客さまのお話
四　歳暮の歌
五　僕の田舍
六　子守唄
七　忠臣藏
八　唱歌
九　キッチヨン節

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一〇　ボタモチの歌
一一　俗歌
一二　伯母酒
一三　年中行事
一四　ブラ〱の歌

姉妹たちが、無邪氣に、元氣よく、歌つたり、笑つたり、跳つたり、それは〱は面白うムいました。

（三）

是から年中行事が始まりますといふので、何かと思つてゐますときれいな奥さんがしづ〱と私の前に來まして、

明けまして、お目出度うございます。昨年中はいろ〱……

私は思はず

女學生の子守唄

本年も相變らず願ひます

奥さまがお年禮をすませて歸りますと、鬼は外、福は内――豆がバラ〱飛んで來ます。其から三月の雛さま、四月の草餅、五月の鯉幟は、お手の本のお細工物の金魚でありました。六月はお茶つみ、姉さん冠りの娘さんが、紙屑籠を持つてお茶摘み姿七月は七夕さん、八月は女學生の歸省、九月は遠足、お辨當開いてたべ始めたのも大喝采、十月は天長節十一月はす丶はき、十二月は樽ひろひ、お腰に「大妻學校御中」「米屋」といふ通ひ帳をぶら下げたのもおもひつきでした。

その中一つとや――の數へ歌から、お國自慢の鄙歌、大漁節も出れば、追分節も出る、大正のお娘さんなか〱すみに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

は置けません、(オット是は內所)
その中ガラッと障子をあけて、子守娘が五六人赤ちやんをぶつて

ねんねんねん、ねんねんねんよ
坊やはよい兒だねんねしな

となつかしい子守唄を歌つて入つて來ましたのはうれしかつた。其處を寫眞にとつたのです。姉妹たちは笑つたが、みんなこうしてお母さんの背中で子守唄を唄つて貰つたのです。今に、自分がお母さんとなつて、この通りするのです。

(四)

その中大石良雄が、堀部安兵衛大高源吾以下の面々を具してチャン〳〵と、金盥を敲いての御入來、一同アツとおどろきながら、喝采しばしは止まず、其が卒へると、優美な踊り、お歌もお上手、次は喜劇伯母酒、それから岩室、安野兩孃のお琴の六段、それから男の先生の劍舞、女先生の唱歌、お父さん(校主)のさつま琵琶、詩吟、さあ私の番、何かやらねば、お黑粉を塗られるといふこと、無藝小食小膽の私は、すつかり參つてしまひましたが、思ひ切つて『では浪花節を一席やりませう、下手の長講は御迷惑、堀部安兵衛德利の別れ、一席演じまする』とお茶をグッとのんで、姿勢を正し、

エヘン、エヘン

とひと聲咳拂ひをしまして濟まし込んでゐますと、生徒たちは、いつから始まるかといふ顏して待つてゐますので、今一咳(一席)相つとめましたとやると、大喝采、女學生がお腹をかゝへました。
最後に福引、めい〳〵が持ち寄つたのださうです、面白かつたのは、

一　題奥山のブラ〳〵橋
　　品(コンニヤク)　ブラ〳〵して動く
二　幼年學校の生徒　品(さつま芋)　兵隊の製造元
三　絶世の美人　品(綿、櫛)　わたくし
四　地獄の名山　品(針)　針の山

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

新講談

描かれた娘

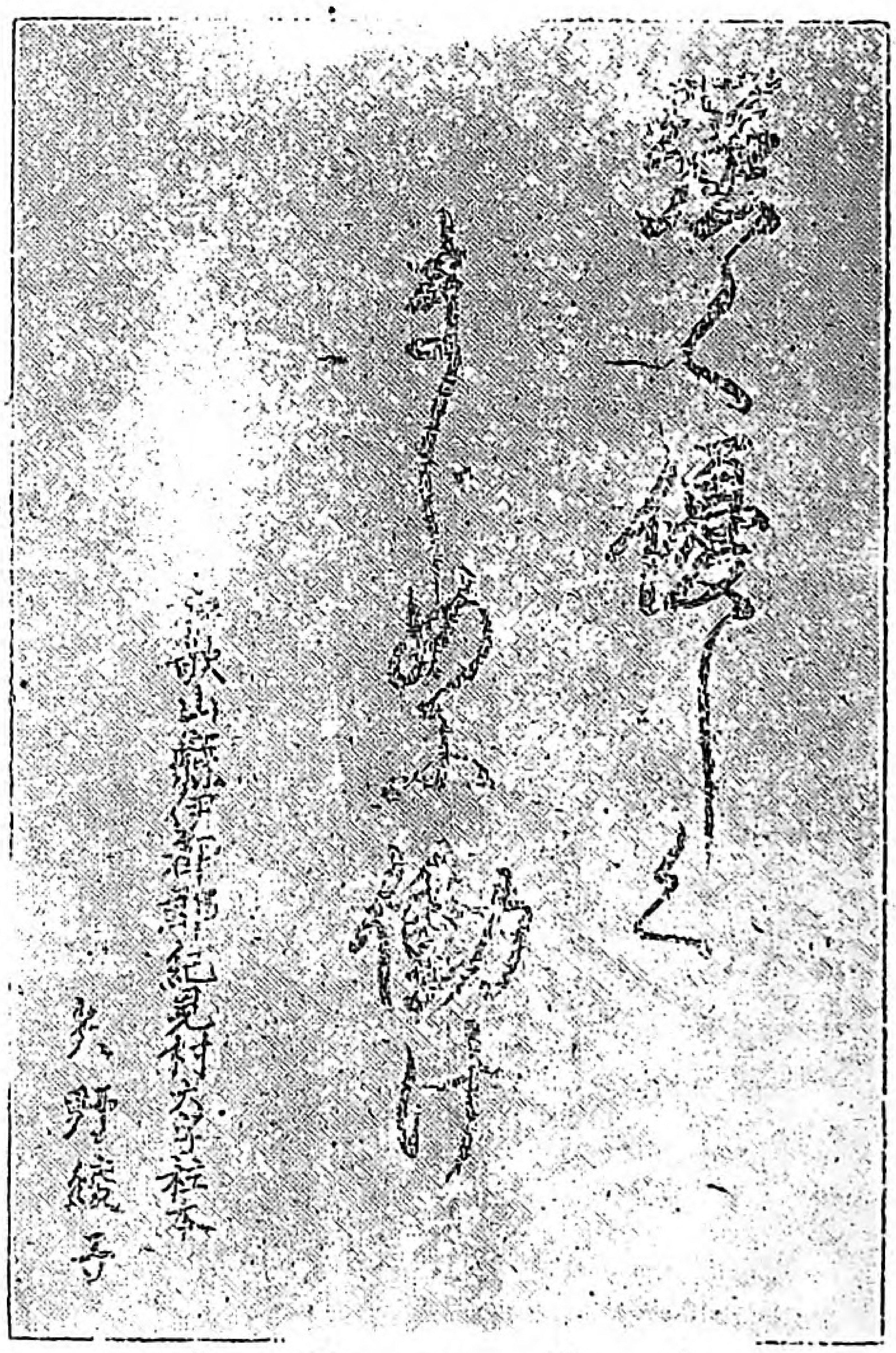
天野雉彦

圓山應擧先生は名高い畫家でした、今から丁度百二十餘年前、寛政七年七月十七日、六十五歳で歿くなりました、今でも應擧先生が描いた畫は一幅何千圓といたします、よいのになると一萬圓は珍らしくありません、丹波國桑田郡穴田村の農家に生れまして、性來繪好き京都に出て石田幽汀といふ狩野派の繪かきの弟子になりました、圓山に住んでゐた處から圓山應擧と申しました、應擧先生の偉いのは、先の人の糟を嘗めてゐることに甘んじないで、別に一派をたて圓山風と云ふのを起した處にあります、これから京都の畫風が一變しました、全體その頃の畫家は多く實物を粗末にしてたゞ頭でばかりかいてをりました、隨分變なのがありました、圓山先生はそれを嘆きまして、實物を見てその眞を寫す、今日申すところの寫生風の繪をかき初めました。先生は實に熱心な人でしたから、猪をかくにも鷄をかくにも、仔細に其毛色羽色を調べて、季節によつてかき分けました、その尊い話は澤山修身の話にも殘つてゐる位です、

さて此應擧先生が困つたものが一つある、それは實物を見るに一寸面倒なもの、外ではない幽靈でした、一體幽靈といふものは、あるものか、ないものか、など聞くのは抑もの間違ださうです、幽靈は見るものか見ないものかと聞いた方がよいさうです、幽靈は時として見るものです、憶病な男が町外れの田圃道をあるきました、折しも秋の夕暮、こわいな何か出なければよいがなと考へ考へ、歩いてゐる、途端、松の木の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

影から、白い手がニユツと出て招いた『ヒヤツ』とびつくりして腰をぬかした、そら出たと現心もありません、丁度そこへ人が通りかゝつて『どうしたんです』『で、で、でました』『何が』『お、お化が』『何處から』『その松の木の蔭からしろい手で』『松の木の蔭から白い手で』其男がよく見ますると何もない、只薄の穗、例の歌にもよみます尾花がニユツと出て、風の吹くたびに、ゆらいでゐました『何です尾花ぢやありませんか』『ハア、なるほど』此臆病の男はこわいこわいと思つてゐましたから、たしかに幽靈を見ました、幽靈と云ふものは得てして心の作る陰らしい、ですから臺灣人の見る幽靈は大體首がないさうです、奴さんやたら首を斬る、その首を斬つたあとが化けて出ると思ふから、さう見えるのでせう、『幽靈の生體見たり枯尾花』と云ふのは此意味を最もよくあらはした句だと存じます。ですから幽靈の出る處、出る時を考へて御覧なさい、幽靈は決して眞晝間出ません、大體夕方か或は、草木も眠る丑滿時遠山寺の鐘陰にこもつて物凄くと云ふやうな時油斷がなりません、御覧なさい大體、光線不足の時です、それに處は大體柳の陰、松の木の側からは工合が惡い、手付は大體手の甲をかう垂れて、決して掌を上げては出ません、さうすると萬歳になります、一寸の違で陰氣と陽氣になる人の心と云ふものは微妙なものです、この陽氣に持てる心も一寸したことで陰氣になる、尤も只飢饉年の幽靈丈は手の平を上



入賞の習字

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

向にして出る、これは物がほしいからださうです、處で今の世の中には幽靈は出にくい、第一汽車だの電車だの、自働車だの、電燈電話幽靈以上のお化が跋扈する世の中では幽靈の出はがありませんので、此頃は絶えて幽靈沙汰をきゝません、日本でももう幽靈の出る土地はなくなつた、しかしたつた一個處あります、それは肥前の長崎です、長崎は趣の深い土地です、和蘭風と支那風と日本の風とが三つ融け合つて、長崎風といふ一種の風をつくつております、石を敷きつめた道、京都めく家のつくり、姫蔓のからんだ壁、赤い門のある支那寺、とりどりに面白い、私は一昨年の秋長崎を訪ねました、幽靈を見學する爲に、熱心なものでせう、私が幽靈の出ると云ふお寺へ到着したのは、暮れ方でした『御免下さい』返事がない『御免下さい『御免下さい』と高調子で呼ぶと奥の方で『オーッ』と返事がして、やがてチョコチョコと出て來た小坊主狸の化けたのではあるまいかと思ひましたが、

『何御用ですか』

『實は東京からわざわざ出かけました、天野雉彦と申すものですが御當寺には幽靈が出るさうでございますので、それを見せていたゞきたいと存じまして』

『それは奇特のことでしたが、誠にお氣の毒でございます』

『どうしたわけで』

『實は幽靈は此二三年休んでおります』

『これは驚いた、幽靈が、ザボタージユをやつてゐるそれは困りました、しかし何處から出ます』

『貴君のゐらつしやる、その後から』

と云はれた時は、私は流石にゾツとしました。今出ない休業だと聞いており乍、そこだと云はれた時は、あまいよい氣がしませんでした、幽靈といふものは理屈の子ではない、情の中から產れるものらしい。

さて圓山應擧先生の頃は、人ものんびりしてゐましたから、幽靈を見たと申すものが多かつたから、幽靈も盛んに出たものでございませう、その幽靈のよく出ると云ふ長崎へ、應擧先生が來ましたのは、和蘭風支

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

那風、それが又ごつちやになつて一つの趣を作つてゐる長崎の情調が、どんなにか繪にとり入れて面白いであらふと云ふ考もありましたでせうが、例の幽テキを見られると云ふ好奇心もたしかに手傳つてゐたことでせう。

應擧先生は一日長崎の有志から招待せられて長崎第一の料亭山屋と申すに參りました、飲めや唄への大騷ぎ、杯もめぐる興もめぐる、あまり深く酒を飲まぬ先生は、只一同が大浮れにうかれてゐるのを靜かに眺めておりました、これも亦繪の種になると思ひながらさて厠に行きたくなりましたので、座を立ちました、梯子段をトントントンと下りて、來ました、夜は更けて、あたりは森としてゐる、騷いでゐるのは、頭の上の自分の居た座敷ばかり、廣い廊下の間毎間毎ヒッソりりして、せきばらひも聞えません、處々ついた燈籠の光がボンヤリ、スタスタあるいてゐると何だか、後からついて來るような氣もします、やがて、キーガタン、用もたしまして、さて手水鉢で手水を使はうとして、ヒョイと向ふを見ると、竹の植込、夜風にザワザワとしたと見ると、ボーッと火の玉が見えました、オヤッと思つて見てゐると、なに離れ座敷の圓窓だ、それに急に燈火がついたと見えて、火の玉に見えたらしい、何だと思ひながら、ヂッと見てゐると、出た、今度はいよいよ出た、圓窓にうつゝた姿たしかに女です髮をふり亂し、肩から首へかけてホッソリした姿、よろ〳〵とうつりました『いよいよ出たな』應擧は思はず、一足あとへ引きましたが、そこが一流の達人、何處か又膽力の据たつ處があります、

『これは面白い、私は凡ての實物はあつても、此幽靈だけは實物のないのに困つた、天應擧の志を憐み賜ふて、この姿を見せて下さるか、有難い、よし充分眼にしみ込ませて、他日幽靈をかく手本にしよう』

と落付拂つて見つめました、これでは幽靈も張合がないでせう、やがて幽靈の姿は、パッと消えました途端に聞ゆる、うめき聲、ウンウンウウン

（以下次號）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

俚諺のわけ

▲雀百まで踊り忘れぬ

雀が百まで踊りを忘れぬと云つては何んの事だか、少しも意味をなさぬが、是は雀は大層節操の高い感心の小鳥であつて、死ぬまで自分の定めた雄鳥のことを忘れぬ、即ち雀百まで雄鳥忘れぬと申すことであります。

▲瓢箪から駒が出る

瓢箪から駒が飛び出して、たつたものではない、是は支那の古諺に戯談生魔と云ふ事から轉訛し來つたもので、戯談魔を生じが、戯談から駒を出しとなり、戯談が瓢箪となつたものであります、……………何に此の位の事、戯談なり、人も笑はん、我又共に笑はんとした事が、意外にも相互に怒を生じ金蘭の交際を絶つやうの實例も澤山ありますから、愼むべきは此の戯談であります、

▲牛に曳かれて善光寺詣り

信州善光寺の縁起録には或る惡婆が飼ひ牛の涎の跡に引かされつゝ知らず〳〵に善光寺に參詣して信心堅固の善女となつたと書いてありますが、大正の今日では其んな荒唐無稽の話は通用致しませぬ、是は古い室町時代からの俚諺であつて即ち大人に引率せられて善光寺へ參詣が出來たと云つたものであります、藤原時代より德川初世の頃までは、自分の主人や家長や良人を呼ぶのに、大人と申したのであります。

私しや妹よ

わたしや妹よ、お兄さまは
海原越えて　アメリカへ、
赤い苺を　黄金に代へて
やがてお嫁を　とりに來る

（國民新聞第一等當選子守唄）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鄙ぶり

梅廼家選

婦女子は文明を生むの母なりとは西洋の格言なり、今や世界改造てふ重大の問題は世上を風靡じつゝあるが、此の秋、此の際光榮ある任務を雙肩に荷はるゝものは吾人が敬愛する處女の方々たらずんばあらず、何となれば既に一家を經營せらるゝものや、學窓に螢雪に親しみつゝあらるゝ人々に在つては、其の境遇々々に支配せらるゝが爲めに到底唯一の目的に向つて進行するの不可能事たるを信ずるに由ればなり、嗚呼春なれや――春なれや、梅も笑えば鶯も歌へり、處女の方々よ請ふ心ゆくまで其の素懷を歌へ。右聖人謂はずや詩は志を言ふと、然れば貴女方の所思の發表こそは、軈て是世態變化を知るのバロメーターたらんものなんめり。

◎

春毎に綠色添ふ青柳の糸の力に國を繫ぎて　　工女某

地方だより

(一) 處女會員の實行要目

靜岡縣濱名郡中瀬村　鈴木朝雄

わが處女會は設立してより既に四ケ年となりましたが、次第に發展して參ります。わが處女會の實行してゐる事項は

一、本會員ハ約束ヲ守ル事
一、本會員ハ年長者ニ口答ヲセヌ事
一、本會員ハ道路通行ノ際ハ左側ヲ行ク事
一、本會員ハ來客歸宅ノ際ハ門口迄出デ、言葉ヲカケル事
一、本會員ハ來客歸宅後ハ暫時カナラズ笑フベカラズ
一、本會員ハ一日一善日記ヲ誌ス事
一、本會員ハ物ヲ粗末ニセザル事

(二) お嫁入りにはかんざしを

群馬縣利根郡日澤村　萩原こま子

記者樣私しの村でも大正七年一月に處女會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

暖かき春の日影を背に受けて母の白髪を拔くも嬉しき　廣子
牛を曳く小娘までが此頃は萬年筆を襟に挾みて　武子
寄宿舍の髮結ひこそは姦しき貴女蝶々私ハイカラ　小露
伯母さんに丈け明しける無分別今更ながら悔む小娘　保子
浮世風呂ごころではない交換手憂たでくもあり樂しくもあり　同
タクシーへ乘れる女は女優なり横ツ面をば張りたく思ふ　小芳
藁打てば鶯近く鳴きにけり片山里の春ののどけさ　竹子
鶯の啼くや和く八瀨の水姿も淸き若き大原女　みさほ
若草や渡しを上る女連處女會へこそ行くと覺ゆる　小春
咲き過ぎて風情失なふ藪椿趣こそは一二輪なり　花吉
勤儉の門より入れる福の神一家和合で又もニコ〳〵　かな子
小さなる蠅の力は大きなる牛馬までも動かしにけり　同
蝸牛落ちては終に靑竹の先の先まで上る辛棒　冬子
國の爲め盡す誠は女子とて霜にもめけぬ常夏の花　吉子

選者吟

住めば又都なりけり山里の人の心ものどかにぞある
たをや女の千引きの力重りて國をば繫ぐ糸とこそなる

が開催されましたのです每年春秋に總會其の間に修養會染色講習會など致して居ります私しの村は農村でありますから青年も處女もごくまじめで實業に從事して居りますから從って會員の身なり等は誠に質素でございます私しはこのたうとい處女時代を強くやさしくまじめに働けとの記者樣の會訓を守る人となりたいと思ひ會員一同にて注意致しましたのであります。

私しの會では嫁入る人には會の記念品として會名を記入致しましたかんざしを一本送りますあゝ處女の友と親しみましてより何となく月日が樂しく送れます。

中央部より

一　嘉悅理事は一月二日富士瓦斯小名木川工場に出演せられ、其から府下の處女會發會式に臨まれまして、其から生活改善同盟會の方に奔走せられて居ります。

二　山脇理事は久しく風邪にかゝられましたが、もう大分およろしうございます。

三　福島理事は、女子高等敎育機關設立の請願を議會に提出せられる爲に、非常にお忙しくなります。

四　中央部もお陰でだん〳〵發展して參りました。御折り下さる皆樣からのお手紙の御返事も一々致しませぬが、一同は厚意を謝してゐます。會長殿及會員諸嬢のお寫眞御送り願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

獨りをつゝしむ

福島縣須賀川實科高女教諭　小林長吉

○

公衆の前にて言語や動作身の廻りなどに不作法な事のない様に注意しなければならない事は申すまでもありませぬ。人々相集りて社會をなし共同生活をして居る以上は、他の人々に迷惑をかけたり、不快な想をさせたりすることはお互に愼まなければならないのでありまして、これやがて公德の必要なる所以であります。

○

併しこれと相並んで己獨居る時の心得も決して忽にしてはなりませぬ。人が見て居らないから如何樣なことをしても構はぬとか、人が聞いて居らないから何を言うても唄つても憚らないなど思ふ人が有りましたら甚だしい心得違ひであります。我等の言行を愼むは人に見られ聞かれするが爲ばかりではありませぬ。他人の視聽を恐るゝが爲に言行を愼むといふならば、これ所謂明暗を以て行を二にする小人の心で、苟も紳士たり淑女たる人の爲すべき事ではありませぬ。我等が善に就き惡を避くるは我等の道德心からの要求でありましてその他に何の意味もあつてはなりません。萬一他の意味からして行つたものとしましたならば、それは人を欺き己を欺くもので僞善と申すのであります。さて此所が肝心の點であつて、修養に志すものゝ最も心すべき所であります。

○

獨のみ思ふ心のよしあしも
　照しわくらん天地の神

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

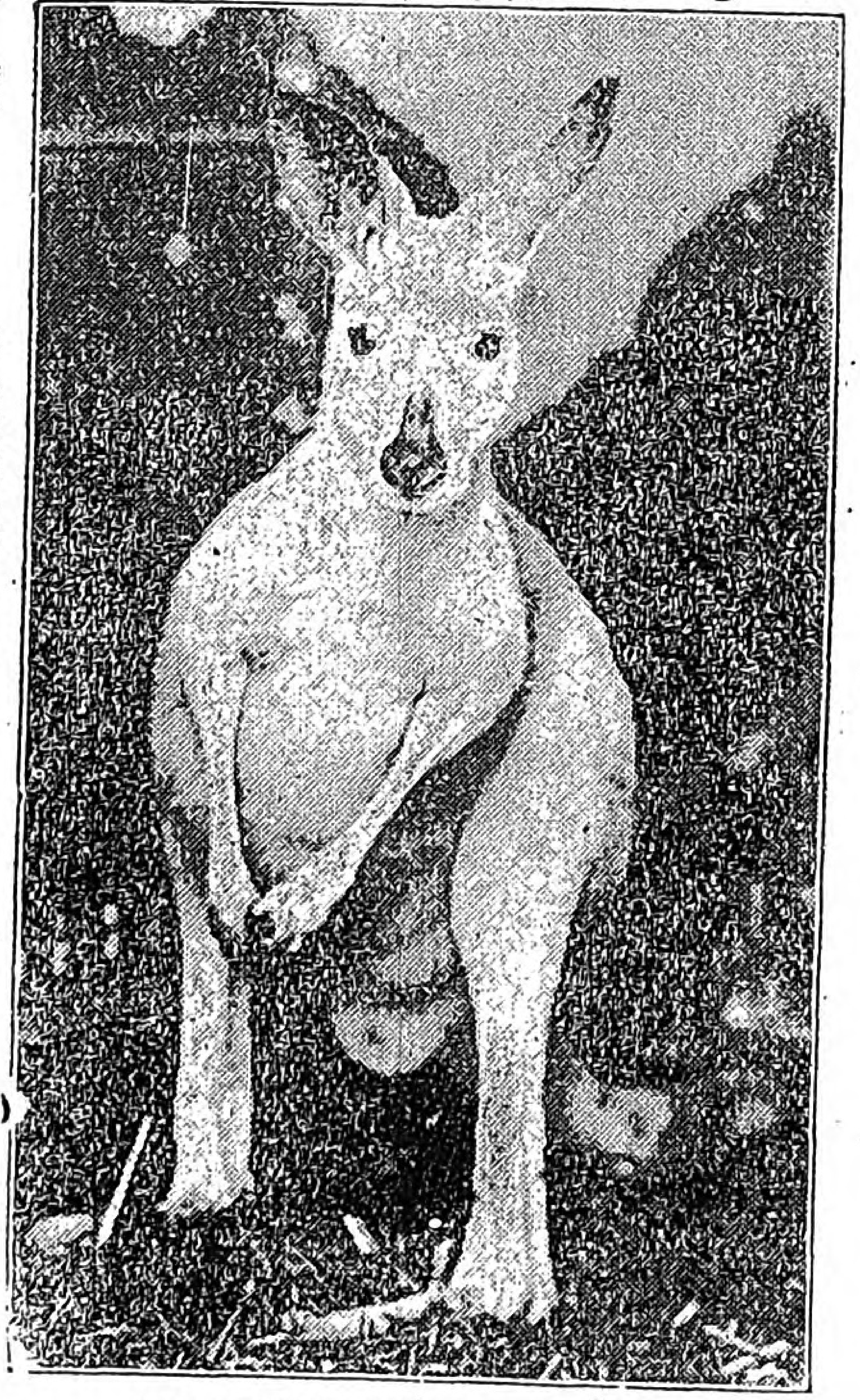
とは畏くも昭憲皇太后の御歌であります。洵にその通りです。人を欺く事は出來ても天地の神明を欺くことは出來ません。キリストも「神我と共にあり」と申されました。「朝々佛と共に起き夜々佛を抱いて眠る」といふ語の意義を玩味して御覧なさい。我等はこの信念を以て獨を愼みたいと思ひます。「仰いで天に耻ぢず俯して地に愧ぢず」と申しますが、更に「起ては影に慚ぢず臥しては衾に愧ぢず」と言ひ得るだけの修養をしたいと思ひます。故中島力造博士は「もしも吾人の心を撮影することが出來るとしたならば、その寫眞を人に見られても恥かしくないだけのを持たねばならぬ」と申されましたが、道歌のこゝろに

我心かゝみにうつるものならば
　さこそ姿の見にくかるらめ

と云ふのと對照して誠に味ふべき教訓ではありませぬか。同じく道歌に

人問はゞ鬼は居ぬとも云ふべきに心の問はゞ如何
　こたへん

といふが有りますが心の問はゞといふのは申すまでもなく自ら省みての意義であります。内心の聲などゝ申すこともあります。自ら省みて疚しからずんば何をか憂へ何をか懼れんと孔子も申されましたが、實に修養を積んで玻璃球のやうな透明玲瓏の心の所有者となり自ら省みて些も疚しい所がないならば、鬼は居ぬとも云ひ得る筈で聊かの憂も怖もない道徳的の強者となられる譯であります。



カンガルー　（京都花子氏寄）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

都にあこがれて（其五）

白雲生作

□

危うい所を助かつたお房は、息せきつきながら尙走りつゞけて、とう〳〵上野公園にたどりつき、とあるベンチに腰をかけますと、張りつめた氣が弛んで、グッタリと仆れてしまひました。青白い月が夜の公園を淋しく照らしてゐます。

ふと目をさました時には、もう夜はあけて、東の空が赤らんでゐましたお房はゆふべの恐ろしかつた出來事を胸に浮べて、ひとり身顫ひするのでした。『それにしてもあのお君さんはどうしたんでせう。』と友達思ひのお房は、自分のことのやうに胸をいため、自分の助かつたのは、あの人の爲、どうしても助けてあげねばならない、早く公番にでもゆこうと、鬢のほつれ毛を搔き上げながら立ち上らうとしますと、節々がいたみます。お房はまたぼんやりとベンチに身を寄せました。

明けの烏が東照宮の森かげで啼いてゐます。お房は其をヂッとみつめて

孝女白菊の歌（三）

四方にきこゆる虫の音も
　あはれよわるときく程に
ありあけ月夜かげきえて
　峰のよこ雲わかれゆく
しづかにそこをたちいでゝ
　あたりのさまを眺むれば
軒の松風聲かれて
　あれたる庭に霜白し
手をばとられつとりつして
　かたみに山路をすぎゆけば
ゆふべの賊のむれならむ
　あさよりあまた追ひてきつ
山僧それと知りしかば
　はやくも少女を遁しやり
おのれはこゝにとゞまりて
　きりつきられつたゝかひつ
しげる林をたれめぐり
　谷のかけ橋うちわたり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ゐました、目から熱い〱涙が流れるのも知らずに。「あゝ故里のお父さんお母さんはどうしてゐらつしやるでせう、どんなにか心配してゐらつしやるでせう、すまぬことをしました、どうぞお許し下さい」心の中で拜みましたが、さて自分は、是からどうしやうか、持ち合せのお金はどこかに落としてしまつて、今は穿き物さへない、あゝ早まつたことをしたと、袖に涙をしぼるのでした。

　夜は全く明けて、美しい太陽が輝きそめ、公園を通り拔ける學生や勞働者がふえて來ます。みなお房の顔をみつめますので、お房は穴あらば入りたいほどに思ひました。

　工場通ひの女工たちでせう、三人づれがお房をみて立留つて指をさしたり、笑つたり、不思議さうな顔してみたりしてゐます。この時お房は『丈夫で働く人が一番仕合せだ、私はその仕合せからわざと離れたのだ』と袂をかんで悔ゐました。

□

　ふと其處を通りかゝつたのが、中折帽子を冠り、インバネス着た三十五六位な紳士でした。

『姉さん、どうしたのです、そんななりをして』

　お房が默つてうつむいてゐますと、その男はお房の横に腰をかけ、煙草

少女はからくにげしかど
　あとに心やのるらむ
きられて痛手おはせぬか
　兄上さきくましませと
はるかに高嶺をうち眺め
　しのぶこゝろぞあはれなる
道のかたへにしめゆひし
　小祠はたれをまつるらむ
涙ながらにぬかづきて
　いのるもあはれその神に
そこに柴刈る翁あり
　なくなる少女を見てしより
いかにあはれとおもひけむ
　こなたに近くよりてきぬ
事のよしをばたづれしに
　まことかなしきことなれば
翁は少女をなぐさめて
　わが家にともなひかへりけり
深くとざしゝ柴の門
　なかばやれにし竹の垣
片山里のしづけさは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

をすひながら、
『奉公先から遁げてゞも來なすつたか、下駄を穿かずに、大ぶ疲れてゐるようだね、どうしたんです、お話しなさい』
と、右の手でお房の肩をさするようにたゝきます。
お房はこの紳士の深切にほだされて、一伍始終を物語りますと、
『それは飛んでもない、危いことだつた、東京には恐ろしい人がゐるからね、田舍の娘さんは氣をつけなければいけない、して是からどうしなさる』
『どこか、まじめなところへ奉公したいと思ひます』
『さうか、ウム、ぢや袖擦り合ふも他生の緣とか、わしがよいところを世話しやうぜ、ナニ是でも少しは知り合もあるからね、丁度この間お前さん位な田舍娘を欲しいといつた華族樣もあつたからね、まあわしにお任せなさい、惡るい樣にはしないからね。それともお前さん、どこかよいところがあるなら自由だがね……』
『どうかよろしく願ひます』
お房にとつてこの紳士は、ほんとうに救ひの神でした。この救ひの神がお房をどういふ運命に導くでせうか。

□

紳士はもうお房の名前を覺えてしまひました。

ひろなほ夜にこさならす
木々の木の葉のちりみだれ
まがきの菊のいろもなく
あらしは時雨をさそひきて
虫のなく音もいささむし
父のゆくへに兄の身に
朝夕こゝろかゝれども
ふかきなさけにほだされて
しばしはそこにとゞまりぬ
ひまゆく駒の足はやく
二とせ三とせ夢のまに
はかなく過ぎてまた更に
のどけき春はめぐりきぬ
み山の里のならひにて
髪もすがたもみだせども
色香はいかでかうせやらむ
あはれ名におふ菊の花
若菜つみにさうちむれて
ちかき野澤にゆく道も
ならの林に一もとの
花のまじろかごさくなり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『お房さん、ちよいとそこに待つておいでなさい、足袋はだしでは……』どこからか、女下駄を買つて來て、足袋の塵まで掃つて穿かせてくれる深切さに、お房はすつかり馴染んでしまひました。元氣づいたお房は、身づくろひをして、髮をかき上げて、紳士の後ろについてゆきます。

紳士は不忍池の方から根津の方へ、人通りの少い所を擇つては、歩るきます。人を恐れるやうな樣子が見えますが、時々お房を振返つて

『お房さんが恥づかしがらうから淋しいところを通ることにした』

と斷るように言ひ譯致します。

おなかゞ空いたらうからといつて、紳士はお房をめしやにつれました。どこまで深切な人であらうとお房はたゞその人をなつかしむばかりでした其から曲りくねつた小路を幾つも通り拔けて小高い丘の横に伴れてゆきます、其處には、二三軒の家があります。その一軒の表の戸のしまつてゐる家の前に立つて紳士はトン／＼と雨戸を輕くたゝきます。すると、しばらく經つとスーッと明きまして、顏を出したのは、四十位な女でした。何んとも言はず、紳士の顏をみつめ、それからお房の顏を見向きました。二人とも默つてゐましたのが、何んだか變に思はれました。女といふは、目つきの惡るい、人擦れした、嫌な女であります。

『お房さん、さあお入りなさい、此處が私の知り合の家だがね、まあお前

里の長なるなにがしは
　はやくもそれときゝつらむ
媒介さとりたのみきて
　長きちぎりをもさめしが
翁はいたくかしこみて
　こゝろまにまにゆるしたり
少女はかくときゝしとき
　そのおどろきはいかならむ
袖もて顏はおほへども
　さゝめもかれつその涙
思ひまはせば母上の
　この世をさらむそのをりに
妾をちかくめしたまひ
　いひのこされしこそある
ある年秋の末つかた
　御墓まうでのかへるさに
つゆけき野路をわけくれば
　白菊あまたさきみてり
にほへる花のその中に
　あはれなく子の聲すなり
かゝるめでたき子だからを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

さんもゆふべから疲れてゐるから、けふはゆつくり此處でおやすみ、明日華族さんへ案内するからね』と言はれて、何氣なく入りますと、紳士は女をつれて奥へいつて何かひそ〳〵と話してゐます。妙な家と思ひましたが此處がまさか人買ひの恐ろしい家とは、夢にも知りませんでした。男は紳士どころか、恐ろしい惡漢なのでした。

□

妙な家で狹いと思つて入つてみると、奥は廣く、隱れた室が澤山あります。女の下駄や洋傘なんぞが澤山ちらばつてゐます。その中その女が出て來て

『此處でお休みなさい』

案内された部屋は、自分一人と思ひきや、年頃の娘が三人隅つ子の方に小さくなつてゐるので、お房はおどろきましたが、をとなしく入りますと入口の戸は錠を卸ろされてしまひました。

どうも樣子が可笑しいと思つて居つたお房は、此室に來て一層胸をとゞろかせましたが、心を落ち着けて、

『みなさんごめんなさい』

とお辭儀致しまして。三人の女は、みんな年頃の娘で、一人は壁に倚りながら帶の間に手を挾んでうと〳〵としてゐます。二人は隅の方に膝と膝

いかなる親かすてつらむ
悲しきことにてありけりと
　ひろひとりしはそなたなり
栗さく野べにてあひたるも
　ふかきちぎりのあるならむ
千代に八千代に榮えよと
　やがてその名をおはせにき
更に告ぐべき事こそあれ
　汝はたえて知らざれど
汝の兄ともたのむべく
　夫といふべき人こそあれ
はやく家出をなしてより
　今にゆくへはわかれども
この世にあらばかへり來む
　老いたる父もましませば
かへり來らむそのをりは
　ゆくすゑかけて契りあひ
夫といひ妻とよばれつゝ
　この世たのしみおくりてよ
母のいまはの言の葉は
　今なほ耳にのこりけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

をつき合せ「小さな聲で話し合つてゐましたが、お房をみて、先方もおどろいたらしく、ていねいにお辭儀を返しましたが、何んとも申しません。三人とも窶れて、眼は窪み、頰はこけてみえます。

お房はこゝがどういふ家か、さつぱりわかりません。思ひ切つて、

『もし〳〵此處はどういふ所でございます、私はお房と申します』

話し合つてゐた二人は、默つて何んとも答へませんでしたが、二度こういつてたづねますと、その一人は

『あなた大變なところにおいでなすつた、こゝはねえ、恐ろしいところですよ、人買ひの棲み家です、私どもは、人にだまされてこんな所に來ましたが、もう近く南洋とかへ賣られてゆくのださうです。昨日までは、まだ三人ゐましたが、みんな伴れてゆかれました、一人は言ふこと聞かなかつた爲に、ひどい目に會つてどこかへ伴れてゆかれました、お女郎とかに賣られたのださうです。あなたどんでもない所に來なすつた』

ヂッと聞きしめてゐたお房は、おどろいて、仆れてしまひました。今一人は

『ね、そんなにお泣きなさるな、泣いたところでどうなるものではないのです、ね、それよりか、是からよくお互に御相談致しませう、私どもゝ、力强いのですもの』

いかでか敎へをそむくべき
いかでか敎にそむくべき
さはいへこゝに來てしより
翁のめぐみいさふかし
さやせむかくさ人知れず
思ひまどふもあはれなり
かれを思ひて泣きしづみ
これを思ひてうちなげき
思ふおもひはちゞなれど
死ぬるひとつにさだめてむ
をりしも媒介入り來り
少女におくりしそのものは
にしきの衣あやの袖
げにもまばゆく見えにけり
少女のこゝろのかなしさを
あたりの人は知らざらむ
見つゝ翁のよろこべば
隣の媼も來て祝ふ
時雨ふりきて照る月の
かげもをぐらきさ夜中に
いづこをさして行くならむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

壁に倚りかゝつてゐた女は、一番年上らしく、うたゝねの夢からさめて、煙草をスパ〳〵吸ひ始めましたが、その樣子といひ、もう娘ではないらしいのですが、ふとお房のゐるのに氣がついて、おどろいた樣子をみせました。お房はていねいに挨拶しました。

泣きはらしたお房は、やう〳〵顏を上げ、つく〴〵と都の恐ろしいことに戰き恐れると共に、自分の家出を心から後悔するのでした。

お房はすつかり自分の身の上を物語りました。二人の女も、身の上を打ち明けました。一人はお里さんといつて四國の生れ、一人はおみねさんといつて北海道の生れ、二人とも都に憧れて家出をし、とう〳〵誘惑されたのであると申します。故里こそ異れ、今は同じ境遇に居り同じ思ひに泣いてゐる三人は、此處でかたく姉妹の契りを結んで、たとへ死んでも、身を汚されまいと覺悟をきめました。

しばらく經つと先の紳士が來ました。ニヤリ〳〵と笑つて、先刻とは、打つて變つた樣子のにくらしさ。

『どうだ、ゆつくり休めたか、仲間がゐて退屈しないでよからう、ハヽヽ、まあゆつくりと休むがよい、こゝへ來てはもう籠の鳥だ。』

袂ろ手しながらづか〳〵と入つて來ました、その面にくさ。

（あとは次號）

少女はしのびて家出しぬ
村里さほくはなれきて
　川風さむき小笹原
死ぬるいそぎてゆきゆけば
　水音すごくむせぶなり
雲井をかへるかりがねも
　小笹をわたる風の音も
にぐる少女のこゝろには
　追手とのみやきこゆらむ
橋のもとに身をかくし
　わが來しかたを眺むれば
遠里小野のともし火の
　影より外に影もなし
下に流るゝ川水の
　底のこゝろは知られども
　少女の死をやさそふらむ
あわれかなしきその音は
死ぬるいのちはをしまれど
　かくと知らさむそのをりは
さこそなげかめ父上の
　いかにかこたむわが兄は

（以下次號）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

浮世新聞

鎌子と好子

——伯爵と子爵の娘と運轉手——

一月九日の萬朝報に次の記事がありました。

□鎌子の後悔

出澤は伯の病氣平癒の祈願

老伯危篤の報を齎して、横濱市南吉田町七九三に、出澤運轉手と同棲する例の鎌子を訪ねた——鎌子は二箇月前から神經痛に罹つて、メリンス友禪の布團の中に銘仙の袷を着て餘り亂れない廂髮で寢てゐたが、記者の噺で初めて父伯爵危篤と知つて驚き起き上り、疲れた頰に涙を流していふ『もう駄目で御座いませうか私は病氣で居りますし、新聞も見ず

鍋島好子

芳川鎌子

邸の方から便もなく、出澤も話して呉れませんから少しも存じませんでした——出澤が五六日前から信心を初めましたのを、不思議と思つてゐましたが、それでは父の病氣全快の祈願をして居たのでせう、父の病氣も私が因、私の不幸は詫の致しようもありません、危篤と伺へばもう逢へもせず悲しいことですが、これも皆不孝の報ひです』——鎌子は語り畢つて泣き倒れた、出澤は傍から伯爵に對し申譯もないことです病氣も新聞で知つたのです、不孝の萬分の一も償ふことの出來ないのは……心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

外で……』とこれも男泣き、家は六疊に四疊半、三疊の三間、伯爵家から仕送りがあるのか、貧しい生活とは見えない。

一月十三日の各新聞に次の記事がありました。

□鍋島子爵令孃の驅落ち

牛込區市ケ谷砂土原町三の一八子爵鍋島直虎氏長女好子(二五)と同家自動車運轉手多田喜敎(二五)とが去八日夜驅落して十一時東京驛發下關行の列車に乘込んだ京都に向ふ約束で運轉手が先づ夕刻邸を去り、次で好子が家出して停車場に落合つたのである。

子爵家では晩餐の時に至つてはじめて好子の姿の見えぬのを知り自動車で搜索者を出さうとすると、其運轉手も見えず、大騷ぎとなつて先づ東京驛へ電話をかけおき、更に家令中島操少將は橫濱へ自動車を飛ばした。この搜索は好子と多田とが東京驛を出發する前に着手され、橫濱驛でも頻りに通過列車を警戒してゐた。其内に十一時五十一分、橫濱驛に到着した列車二等室に中折帽子に背廣服、外套を着た多田と、大島紬の對の衣服にお召のコートを着た好子とを發見したので、驛前派出所に出張中の大平警部補と警官二名とが室に臨み、直に引下して保護の上、前記中島家令に引渡したが、其後の好子は家令の家の一室に謹愼してゐるさうである好子は大正四年四月學習院女學部を好成績で卒業した婦人多田は昨年三月子爵家へ抱へられ度々好子のお供をしてお氣に入つてあつたと聞く。

□記者の批評

皆さん、この新聞の記事をみて何んと思ひますか、一人は伯爵、一人は子爵、みな立派な華族さん、そのお孃さん、奧さんが揃ひも揃つて運轉手と驅落をしますとは、あゝなんたることか、しかも二人とも相當に敎育があるのです。呆れるではありませぬか。是等は全く貴婦人でなく金婦人の見本です。まだ〳〵こんな恥さらしの例はたくさんありませう處女會員は貴婦人とならうではありませんか。いえいえみんな優しくまじめに働くほんとうの貴婦人です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

東京の人が暮らし方の改良

昨年の暮から文部省、内務省を始めとして東京の名高い方々の發起で、生活改善同盟會といふものが出來ました。是は、今までの暮らし方に無駄があつたり、みえがあつたので、其を改良して、日常の生活を、もつと簡便に經濟的にし、尚その上に社會に行はれて居つた舊い習はしなどを改めて社會多數の人の爲になるやうにしたいといふのが、この會の目的で、一月二十五日にお茶の水の女子高等師範學校で發會式を擧げることになつてゐます。當日は、生活改善の主旨をかいた廣告札のようなものを東京市中にまきちらし、演說會をも開き、尚生活改善に因んだ活動寫眞をも方々で寫すことになつてゐます。くわしいことは、三月號で御知らせしますが、次にその規約をお紹介致しませう。

○生活改善同盟會規約

●私の村の處女會

（福島縣東白川郡石井村處女會報）

我が村の處女會は明治四十三年頃一部の大字に設けられて處女の修養を圖つて居ましたが時勢の進歩は遂に一村統一の必要に迫られ大正八年二月十五日石井村處女會が出來全村の處女一百名の強い優しい團體となりました爾來會員は申合せたやうに夫々修養にいそしんでゐます、言葉遣に態度に働き振りにだんだんよくなりつゝあります。集會には皆樂んで出て來ます、そして定めの敎育勅語を一齊に奉誦して修養氣分を高調してゐます。「處女の友」を購讀するものが月月殖えて來ます。私共農村の處女としての讀物に一番適して居ます桔梗首振る芒は招く秋の花野の面白やと歌ふのはほんとうに私共の實際でありますと處女の友は私共田舍娘の雜誌でありますとは讀者の實感です。どうぞ三里行かねば汽車にも乘れぬ不便な田舍の處女會ですが、眞面目で働いて居ますから中央部の諸先生樣どうぞ可愛がつて導いて下さい。

附 石井處女會則の一部拔萃（會則二十七條より成る）

第四條 本會員ヲ左ノ二種ニ分ツ

一、正會員 年齡二十年未滿ノモノ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

第一條　本會を生活改善同盟會と稱す

第二條　本會の目的は會員相互の協力に依り我國民生活の改善向上を期するにあり

第三條　本會員は左記事項の實行を期するものとす

一時間を正確に守ること

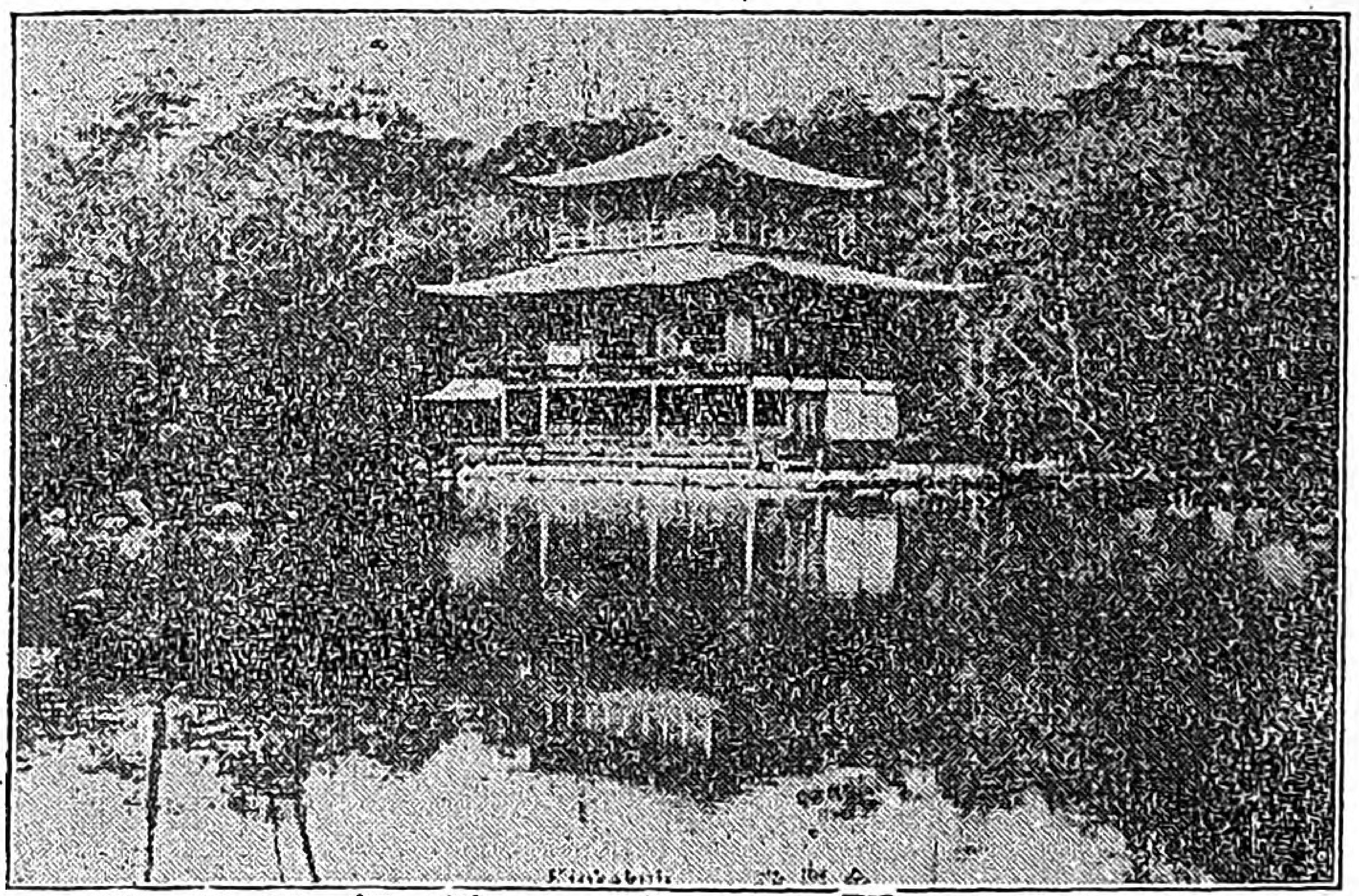
二訪問、紹介、依頼等は相互の迷惑ならざる様心掛くること

三親近者に對する外停車場の送迎を廢すること

四年玉、中元、歳暮、クリスマス、プレセント、餞別、土産祝儀、不祝儀等に於ける形式的贈答を廢止すること

五年賀、時候見舞等に於ける形式的の回禮及書信の往復を廢止すること

六冠婚葬祭其他の儀禮は嚴肅を



金閣寺　（京都君代寄）

二　特別會員　年齢二十年以上並ニ既婚者

第六條　正會員ハ裁縫等ノ補習教育ヲ受クルノ義務アルモノトス

第七條　正會員ハ月次修養會ニ出席スルノ義務ヲ有スルモノトス

第十二條　本會ハ勤儉ノ習慣ヲ養ヒ兼ネテ主婦タルノ素質ヲ修養センカ爲メ左ノ事項ヲ實行スルモノトス

一、蔬菜ノ栽培、手藝ノ發達ニツキ調査奬勵

二、自己生産品評會ノ開設

三、家政ニ關スル研究並ニ練習

四、慈善事業ノ幇助

石井處女會は會長月井宥之助氏總理を輔佐し會務の遂行に盡力せられつゝあり倍々同會の發達せられんこと切望に堪へませぬ。（記者）

通俗修養　猿づくし

上毛妙義山下　岡部榮信氏

大正九年庚申の春戯作

一ツトヤ、一夜明ければお正月〳〵
お猿はめでたやめでたやな

一ツトヤ　不平を言はざる嘆かざる〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

旨とし、虚飾に流れざること

七　宴會の弊習を改むること

八　酒杯の献酬を廢止すること

九　飲酒を廢すること

一〇　喫煙を廢すること

一一　衛生上他人の迷惑となる行爲を愼むこと

一二　迷信に基ける弊習を廢すること

一三　雇傭人に對しては人格を重んじ親切を旨とすること

一四　冗費を省き收入の幾分を必らず貯蓄すること

一五　金品は濫りに貸借せざること

一六　水道電燈瓦斯等總て公共的物資の浪費を避くること

一七　群集の場所に於ては禮儀秩序を重んじ弱者を扶くる樣心掛くること

　お腹も立てざるよいお猿〱

三ツトヤ　見ざる言はざる聞かざるは〱

　惡まれざるにてよいお猿〱

四ツトヤ　慾深猿などいやな猿〱

　むすびの外には眼なし猿〱

五ツトヤ　意地惡猿にはかせがざる〱

　誠意をもたざる駄目な猿〱

六ツトヤ　無理を言はざる威張らざる〱

　欺かざるなら信用さる〱

七ツトヤ　難儀や苦勞を厭はざる〱

　猿面冠者はゑらひ猿〱

八ツトヤ　やきもち燒かざるふくれざる〱

　家庭はもめざる春の風〱

九ツトヤ　國家の御爲をはからざる〱

　心得違ひの虚榮猿〱

十トヤ　年の始めの計ごと〱

　忘れてならざる出世猿〱　以上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

うちあけ話

私の身の上は『房子さん』のやう

一　工女さんからのおてがみ

一月八日富士瓦斯紡績の小名木川工場の工女〇〇〇〇さんからこういふおたよりがありました。

年の初日のかげのもとに、はるかに記者様の御清福をお祈り申上げます。私は三年前から會社で働いてゐる者でございます、さういふ者でございますから何についても

◇物淋しく國に居ります父母を◇

思ひ或は又それ〳〵の世の樂しみを思ひ、何につけてもまん足が出來ないで、どうしようかと思つて迷つて居ります所、去年の三月二十六日に、意外にも皆さんも御存知の通りの眞の神を信じて今では毎日を樂しく働いて居ります、けれども私はもと〳〵本がすきでございまして、本といつたら何もいらないくらひでございます。でひまさへあれば、本をよんで居りました。今も又

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

◇働いて御室に歸つて來て◇

みれば、この「處女の友」が御室にあつたのでございます。

私は着物を着かえるのもわすれて、よんで見ました、一番最初に表紙をみますと、之まで本は色々とつてみましたけれども、まだこの「處女の友」といふのは見たとのない本でございました。それから中をひらいて見ますといづれも、私共の様な物淋しい又、悲しみの多い物には、これまで色々とよんだよりも一番同情深い本でございました。私が第一にみましたのは、

一心になれ

人を羨み、ねたむは愚か
彼も人なり、我も人なり
一念こつては何成らざらむ
成らぬは力の足らざる故ぞ
運拙しさかこつをやめよ
自ら助けて天亦助く
唯人力の及ばん限り
盡し〱てたをれてやまん

といふのをみました。

◇都にあこがれて◇

あの都にあこがれてといふのは、ほんとうに名こそちがへど、私の身によくにて居りました。房子さんの愛らしい御心が私にはほんとうに感じられました。一月號を初めて見た私には初の方は分りませんが、房子さんはこれからどうなるでせうね。それから「孝女白菊」の歌もよく出來て居りましたのね、私もこれから毎月この「處女の友」を私の働いて居りますこの會社に送つていたゞきたいのです。けれども、どうでございませう。どうぞこの手紙の着次第御返事下さい、御返事下さる時に、本の御金のことをかいて下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

まだ〳〵書きたいことはこぼれ松葉のかず〳〵あれど
夜はしん〳〵とふけ渡り
しづり（すゞりのこと）の水もひえしより
まづはこんばんはこれにてお別れ致しましよ。

大正九年一月八日

〇〇〇子さんへの御返事

〇〇子さん、あなたのお手紙いくどくり返して讀んだかわかりません、讀むたびに、胸が一ぱいになり、目が曇つて、あなたの小さく書いた字が見えなくなります。あゝ感心な〇〇子さん、よい心掛の〇〇子さん何から申し上げてよいかわかりません、あなたは東北の方ですね、すとしと間違えてゐますもの。すゞりをしづりとかいてありますもの、宮城か、秋田か、こんどは知らせて下さい、三年前からゐらつしつたといふから、もうぢきにお家へお歸りか、いつまでゐらつしやるか、其も知らせて下さい、何百里と離れた故里のお父さんお母さんを胸に浮べて淋しくなられるとはさうでせう。さうでせう。御同情致します。けれどもよく神の道にお入りなすつた。感謝して働き、滿足して働くといふこと、是は何よりたふといことです。働くといふことは、

◇神様へのお祈り◇

でございます、然しあなたは、お身體はどうか、働きすぎて若しや大事な身體をいためればしないか、其が心配でなりません、流行風邪の爲に、保土ヶ谷工場では二十人も女工さんが死んださうです。お國を遠く離れて出稼ぎされて親にも兄弟にも會はずに死んだ女工さんを心からお可哀さうに思ひます。あなたの工場はどうです、どうか〳〵大事にして下さい、身體がもとですものね。私は、あなたは、誰よりも一番丈夫と思ひます、神様があなたを守つてゐて下さると思ひます。本がお好きとのこと、何んといふよいお心掛でせう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大ていの女工さんは、活動寫眞か食べものが好きだといひますが、あなたはほんとうによいお心掛です。書物は頭を養ふ滋養物――、今も

◇働いてお室に歸つて來てみますと◇

といふ所が一ばん私の心を動かしました、ピーピーと汽笛が鳴ります、恐ろしい音をした機械がピツタリ止つて、大ぜいの女工さんは、順々に工場を出てお部室に歸ります。十二三位な可愛ゆい女工さん、丸髷に結つた大きな女工さん、元氣よく笑ひながら歸る人、淋しくヂツと考へ込んでゐる人、血色のよい人、やつれてゐる人、青白い顔をした人、小聲で歌なんぞ唄つてゐる人、樂しさうに手をひき合つてゆく女工さん、いろ／＼ありませう。髪をみると、綿のこほりが白く積つて丁度淡雪がふつたよう、ねむい／＼と目をこすり／＼ゆく人もありませう。長く列をして寄宿舍にわが家に歸つてゆく女工さんの樣子がみえるようです。その中にあなたもゐらつしやる。どんな樣子をしてゐられるか、いろ／＼と私は想像してゐます。落ちついてヂツとして

◇けふ一日の仕事を終つた喜び◇

を神に感謝して、胸へ手を當て十字を切つて、しづかに廊下を辿り／＼第二の家の寄宿舍に歸つてゆかれる淋しいけれども、悟りのある品のよい十八九の女工さん、其があなたであるように思はれてなりません、きつと／＼さうでせう。

○○さん、私は其の中あなたをおたづねしますよ、會社にも内所にして急にお會ひしにゆきますよ。然しお休みの時でなければよくお話しも出來ませんね。ゆつくりお話しをしたく思ひますよ。

働いて御部屋に歸つてみると『處女の友』があなたを待つてゐましたか、あれは工場で買つてみなさまにお上げしたのです。同情のある雜誌とほめて下すつてうれしい『私共のような物淋しい悲しみの多いもの』い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

えいえ其はあなたばかりではないのです。私どもも同じこと。いえいえ、あなたは、またこれからです。今は大事な花なら蕾のころ、是から花を開き實を結ばうといふのに、物淋しい悲しいなんぞと悲觀してはいけません、ソリヤ悲しい時もありませう。つらいこともありませう。然し其を堪へ忍び、其に打克つてゆくのが私たちの心掛です。

◇梅の花は霜にも雪にも◇

打克つて開くではありませんか淋しく思ふときには、神におすがりなさい。好きな書物をごらんなさい、書物は一ばんよいお友達であります大勢と一所にゐますと、あなたと心持のちがつたお友達がゐませう、お友達が自分の心持を解つてくれないといふことはいやなものです、又淋しいものです。然し人の心は顔のちがつてゐる樣にマチ〳〵です、あなたと心持のちがつてゐる人達があつても、嫌つていけません。腹が立つても怒つてはなりません、常にニコ〳〵してゐなければなりません。さうする中には、あなたのお心が先方に通じますよ、信者の中には、怒つた樣な顔をして、一人ポッチでポッネンとしてゐる人もありますが、其では信仰でありません、誰でもを愛し、誰でもと仲好くし、

◇常に心を和らげ◇

ニコ〳〵としてゐるような信者でなければなりませんほかのお友達にお汁粉たべにいつてゐる時に、あなたは本を讀みなさる、ほかのお友達が活動寫眞みにゆく時にあなたはしづかに部室に殘つてお祈りをしてゐられる。きつとさういふ時がありませう。たふといことです、又お友達が疲れてねてゐる時に、あなた丈起きてお母さんへ手紙をかいたりする時もありませう。このお手紙もさういふ時におかきになつたのではないでせうか。さうです〳〵きつとさうでせう。『夜はしんしんとふけわたり』といふあたり、一番私の心を動かしましたあなたがこの手紙を書いた爲に、大切なねむる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

時間が少なくなつたのではないかと、私はお氣の毒に思ひます。

『都にあこがれて』がそんなに面白うございましたか、あれは活動寫眞に出來てゐます、一度あなた方にもみていたゞきたいと思ひます、然し

◇ほんとうに私の身の上に似て◇

ゐるとはほんとうですか、お會ひ致したときつゝまず打ち明けて下さい。是については、お會ひしてから、詳しく申しませう、孝女白菊の歌もまだつゞきがありますよ『處女の友』を讀んで下さるとはありがたい、然しあなたが夜ねむらずにまで働いて稼いたお金をいたゞくことはすまぬことに思ひます、相談して、この御返事はあとから出しませう。

では○○さん、その中ゆつくり會ひませうが、どうか〳〵身體を大事に、心を廣く持たれ、神の道を信じごこまでも清く正しい道を進んで下さい。あなたの身の上によいことばかり來たることを私も神にお祈り致します

日なたぼくり

東京市太田ふみ子寄

あたゝかいのどかな日に、ゐなかの子供が野原でたのしさうにあそんでゐます。右の方の子が泣くまれしてゐます。廣い野原であそぶと子供はよくふとります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

婦人會 主婦會 全國處女會一覽

三重縣

名稱	創立年月	員數	會長氏名
河藝郡			
稻生村處女會	五、一一	九五	大井貢三郎
天名村同	二、一〇	六二	米川貞藏
榮村同	四、八	一四〇	坂鹿之助
椋本村同	四四、九	一〇二	大市丈夫
河西村同	五、二	九二	青木謙道
一ノ宮東區同	四四、一一	八七	直田萬造
一ノ宮西區同	二、九	五七	杉岡純一
若松同	六、二	一三二	内山治右衛門
志摩郡			
鳥羽町處女會	四三、三	一六〇	竹内鍵助
鳥羽町小濱同	三八、三	六九	田邊市藏
鳥羽町堅神同	四、五	二三	竹内鍵助
桃取村同	四二、二	八七	濱口佐五郎
答志村同	四三、四	二一六	中村六右衛門
神島村同	四一、二	四五	小久保又助
菅島村同	四三、三	七五	小寺萬次郎
坂手村同	四四、二	一八二	楠田久五郎
加茂村鄭内同	四一、三	三二	片岡藤次
加茂村岩倉同	同上	二五	中村蕊
同上安樂島同	四一、三	三七	富村盛造
鏡浦村今浦同	四五、三	二三	小林庄藏
同上本浦同	二、一〇	三二	山本兵衛門
加茂村石鏡同	四五、七	八九	本村德助
長岡村相若處女會	二四、一〇	一五二	小崎萬吉
同上國崎同	四二、九	六一	太田六之助
的矢村同	四四、三	五二	小村萬吉
安乘村同	四五、二	一七五	大野運五郎
國府村同	四一、一	六三	森三助
磯部村築地同	元、八	三六	逢坂貢
同村坂崎同	四五、八	五六	濱口藤十郎
同村五知同	二、一	二一	中野こそめ
同村迫間同	四四、一	二七	畑しげ
同村穴川同	四二、一	四四	出口倉之助
同伊雜同	同	三九	堤しよう
同下之鄕同	四二、九	七八	南ますへ
同惠利原同	四三、三	六一	山下佐美太
鵜方村同	二、八	七〇	千賀三八生
神明村同	三、一	三二	杉原金一郎
立神村同	四二、八	六五	山中糸吉
甲賀同	四三、三	一三	松村力藏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

志島村同	四三、一	七六	廣 福松
畔名村同	四二、四	七四	池田 萬吉
名田村同	三六、五	四六	中村萬之助
波切村同	元、十二	五八四	高橋藤兵衛
船越村同	五、十一	一六八	山際作右衛門
片田村婦人會	五、三	四二〇	東山 藤藏
和具村處女會	四三、三	二三二	西岡 源六
御座村同	廿八、	八六	中村 俊雄
越賀村同	二〇、七	一四四	小川萬之助
濱島村同	六、二	一二七	竹內 岩松
同上南張同	四一、一	一一三	岡村 鯨次
同上迫鹽同	四四、一	五三	中村 末吉

名賀郡

藏持村同	四三、一一	一一二	朝日 舜道
薦原村同	四三、九	九七	森本 梅石
錦生村同	四二、四	一三八	宮崎勝之助
瀧川村同	三、八	一四一	吉住 健
箕曲村同	四五、八	一五三	深山康太郎
比奈知村瀨ノ原	三六、二	四〇	小西 米藏
國津村同	四三、四	七八	木平由太郎
花垣村淑德會	四二、二	一〇五	保田 俊暉
右山村女學會	四二、三	七七	上島 繁造
猪田村處女會	四二、五	一二四	壺田孝之助
依那古村	四二、二	一九一	松田 金松
比自岐村	四二、九	四二	猪木勝之助
神戸村	四三、二	八〇	永濵 出

美濃波多村	四二、九	八〇	山崎 正藏
阿保村	四三、二	一〇二	喜多正治郎
上津村	四三、一一	五五	永井口角太郎
種生村	四二、九	一五二	岩脇下之助
矢持村	四二、九	九〇	關田 義臣

岡山縣

大原村	六、一	九五	平田富太郎
粟井村粟井小學校	一二、二	一三七	兒島牧太郎
河會村上山尋常小學	六、八	四〇	金田 滋美
粟廣村田殿至誠會支部	六、七	三〇	橫山房次郎
大吉村大吉婦人會	三、十一	二五〇	稻垣 雄平
巨勢尾村谷婦人會	七、三	一四七	周藤 仲治
江見村婦人會	四、一〇	七五〇	今井常四郎

英田郡

粟井村主婦會	六、一〇	三八〇	兒島牧太郎
河會村主婦會	六、八	二六五	安藤 幸平
粟廣村田手主婦會	六、一〇	一五一	河瀨 卓
鹿田村婦人敎育會	三九、五	一九五	菅 與志

御津郡

宇甘東村婦女會	二、八	四八〇	海野 藤吉
福山村處女會	三、八	四〇	片山 鑑夫
芳田村婦人會	二、三	三一二	鴨井 里加
金川町婦人親和會	五、三	九八	寺田小さの
馬屋上婦人會	元、一〇	三〇〇	藤井 幸
宇甘西村處女會	四四、四	一五〇	山中 隆造

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

皆さん考へて下さい

◎お房さんは何を考へてゐるでせう？

是は活動寫眞『都にあこがれて』の中の一場面であります。姉さんかぶりに襷をかけ、野良着を着て手に藥罐をさげてゐます。皆さんお房さんは、今何をしてゐる所でせう。上手に言ひあてた方にごほうびをあげます。所はどこでもかまひません。只どうしてゐる所か、何を考へてゐる所か、それとも何かみつめてゐる所か、あてて下さい。

その答へは

一、はがきにかくこと

二、〆切は二月十八日まで

三、東京市本郷元町二ノ六十六『處女の友發行所』宛のこと

四、賞品は天地人の外よく出來た方五人に爲になるよい品をあげます。特に天の方には天野理事がこんどお作りになつた『地方の婦人へ』といふ立派なよい書物をさしあげます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

富士瓦斯紡績會社

保土ケ谷工場處女會發會式の記

(一)

一月號で皆さんにお知らせしました通り保土ケ谷工場處女會發會式が一月十九日に行はれました。寒うございましたが日本晴の上天氣で、私は朝二番の汽車で東京驛を發し、程ケ谷に下車して工場に驅けつけますと、もう遠藤工場長始め職員の方々が大勢來られて、支度してゐられます。

正九時を合圖に左の順序で開會致しました。

〇工場處女會發會式次第

一、君ヵ代　會員一同
一、教育勅語捧讀　工場長
一、發會の辭　遠藤名譽會長
一、發會の挨拶　千代延常任幹事
一、内務大臣祝辭
一、神奈川縣知事祝辭
一、處女會中央部ノ祝辭
一、來賓祝辭
一、處女會の歌　會員
一、談話
　會員(試驗科)　横山ハツ(十八歳)
　同(撰綿科)　横關サイ(十七歳)
　同(製紡科)　森せきよ(十八歳)
　同(仕上科)　伊藤タネヨ(十五歳)
一、唱歌獨吟　乙女ノ誇
　會員(撰綿科)　鴻野フク(十八歳)
一、唱歌第二ノ我家　會員
一、講話　處女會中央部理事
一、工場歌　會員一同
　餘興
一、通俗講話　天野雄彥氏
一、三曲合奏

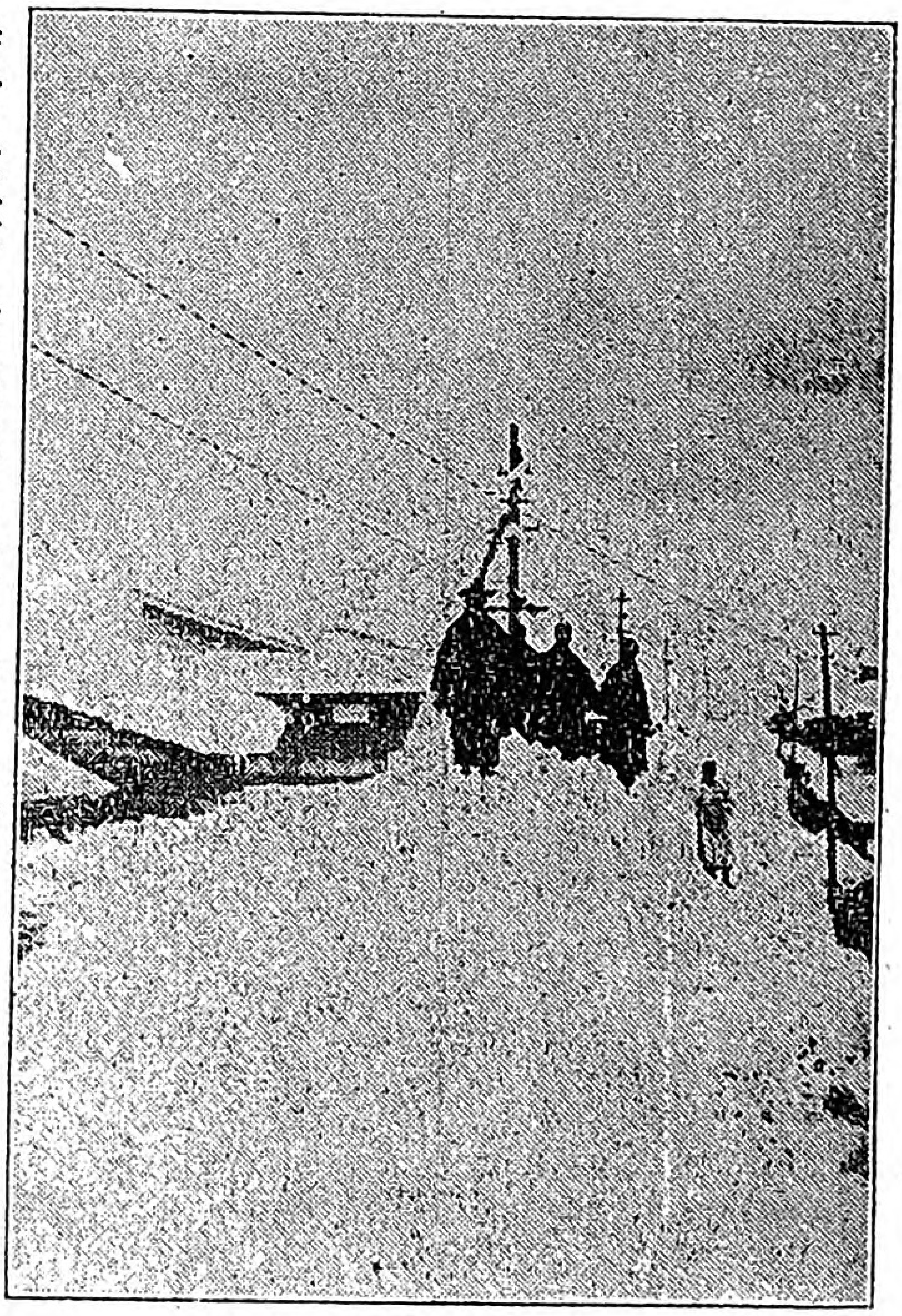
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

以上

（二）

會場には萬國旗を交叉して、演壇の左右には、工女さんの活花が見事に飾つてあります。工女さん四千五百人の中勉强でまじめな方五百人ばかりが處女會員となつて居ります。みんな上品でしとやかで、地方の處女會と少しも變りません。

君ケ代も馴れないと思ひの外、オルガンによく合ふことと女學校の生徒以上です。内務大臣の祝辭は次の通りです。



保土ケ谷工女さんは秋田、山形、青森の方が多いのです。

工女さんのふるさとの昨今

祝辭

今回富士瓦斯紡績株式會社保土ケ谷工場ニ於ケル女子勞務者ノ有志新ニ工場處女會ヲ設ケ相互ニ友情ヲ溫メ智識ヲ養ヒ德性ヲ研キ健康ヲ保全セントシ會社亦之ニ對シテ種々ノ援助ヲ與ヘ其ノ目的ノ達成ニ力ヲ致サントセルハ我邦工場界ノ一美擧ト謂フヘシ近時勞働問題ノ論議セラル、モノ漸ク多ク女子勞務者ノ向上ニ關スル各種ノ運動亦次第ニ興起セムトス此時本工場ニ於ケル女子勞務者カ率先シテ自ラ智德ノ涵養ヲ目的トスル共同自治ノ機關ヲ設ケ砌磋琢磨シテ健實ナル婦人タラントスルハ是女子勞務者カ自ラ其ノ地位ヲ向上スル所以ニシテ工場ニ於ケル作業能率亦之ニ依リテ上進スヘシ

希クハ之ヲ機トシテ修養ノ實績ヲ擧ケ延テ我邦女工界ニ清新ノ機運ヲ作興セムコトヲ發會式ニ臨ミ一言以テ祝辭トス

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大正九年一月十九日

内務大臣　床次竹二郎

（四）

其から神奈川知事及處女會中央部の祝辭につゞいて來賓の方々のお祝ひの辭がありました。其が終りますと、工場處女會の歌を會員が歌はれました。

工場處女會の歌

一

にごりにそまぬ白蓮や　み空にかゞやく星のごと
清くけだかき心をば　研きてやしなふ集なり

二

かほりゆかしき姫百合も　姿やさしく雄々しけれ
勉めてりゝしき心をば　研きて養ふ集なり

三

みどりかはらぬ松ケ枝は　しぐれに霜にたえしなれ
辛苦にしのぶ心をば　研きて養ふ集なり

四

花は散りても實を結び　月はかけてもまた滿てり
あだにすごさぬ心をば　研きて養ふ集なり

をちついた上品な「工女」さんが、いゝ聲して揃つて歌ふ所をみまして、ほんとうに何ともたとへようなくうれしいなつかしい感じがいたしました。歌は強く優しくまじめに働けといふ處女會の會訓によく似てゐるのも、一入なつかしくありました。

（五）

其から會員の談話にうつりました、横山孃、横關孃、森孃、伊藤孃といふ順に、一人づゝ演壇に上りましてハッキリと大きな聲で五分談話を致しました。みんな處女會の出來たことを喜び、まじめに勵んで立派な婦人となることを誓はれました、處女會を花園にたとへ『私どもはその花であります、立派な實を結ぶよう、今の中一生けんめに勉めませう』といつた人もありました。横關さんは、お祝ひの文章をよまれました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

其から鴻野ふく子孃は、唱歌獨吟「乙女の誇」を歌ひなすつた。乙女の誇！　なんといふなつかしい歌か。その美しい聲、その美しい調べ！　みんな醉つてしまひました。あゝ、たふとい女工さん。昨夜まであの器械場で糸を紡いでをられた女工さん、その方々がけふは立派な貴婦人です。ふだん働いて居られる娘さんであるだけ、私には、うれしくたふとく感じました。今まで女工といへば、品のないものゝように思はれて居りましたのに、こういふ會が出來て、みんな上品に氣高く見える。お國の仕合せです。

其から「第二の家」といふ唱歌です。

第二の我家

(一)富士のたかねともろともに
富士紡績と名もたかき
株式會社けいえいの
保土ケ谷工場のなつかしさ

(二)雨のふる日も風の日も
み國のわざの一はしさ
かよわき肩に負ふてたつ
これぞわれらの勞働よ

(三)汽笛のひゞきもろともに
めぐり初むるや電動機
あやなすしらべも弛みなく
はたらく我等もたゆみなし

(四)かたびら川に沿ふて建つ
第二の我家なつかしや
廣さはげにや十萬坪
園には四季の花競ふ

(五)はらから多く幸多き
第二の我家にひねもすを
等しくはたらく百千の手
これぞ御國のさかえなり

(六)銀黄金しんじゆもて
五つの指はかざらずも
つきぬ光を身にひめて
ほこるは我等の腕なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

（七）かくてたふときわが業と
かへぬつとめの正道を
あだにはせまじはらからよ
いざやはげまんもろともに

秋田に、山形に、宮城に、生れた所こそちがへ、此處に來てゐれば、姉妹も同じこと、第二の家です、第二の家です。

しろがねこがねしんじゆもて、
五つの指はかざらずも、
つきぬ光を身にひめて
ほこるは我等の腕なり

さうです。さうです。この所を歌ふとき、女工さんの聲は、一層高く〳〵誇らしげでありました。

（六）

其から風邪の爲來られなかつた嘉悦理事に代つて、「工女は卽ち孝女なり」といふわけを少しばかりお話し致しました。『子爵の令孃は、皆さんより美しい着物を着てゐます、然し運轉手と驅け落をするようでは、貴婦人どころか、賤婦人です。強く優しくまじめに働く女こそほんとうの貴婦人です。』尚工女さんから來た手紙をよみまして、中央部とは、仲よくするよう、みなさんの兄さん、姉さん、お母さんになりませうと申しました。

其から天野雉彦氏の新講談「柳の指環」がありましたが、同氏のお上手なそうして爲になるお話しに、みんな笑ひ崩れましたが、その間に、まことに爲になるよい敎が光つて居りました。お琴と尺八とヴアイオリンの合奏があつて會を終へましたのが丁度十二時半、九時から始つてこんなに澤山のことをしました處女會は珍らしい位です。お午にはいろ〳〵ご馳走になりましたが、お刺身よりも、フライよりも、私にご馳走でしたのは工場處女會員がお給仕して下すつたことでありました。

（あまの）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

◦『處女の友』誌友名簿(一)

「處女の友」の愛讀者は、處女の友の誌友でございます。だまつて居つてはわかりませんから是から名乘合つてお友達となつて下さい。寫眞もあらば送つて下さい。わざ〳〵寫す必要はありませんが。

北海道の讀者と九州の讀者と姉妹となつて下さい。四國の方と北陸の方と文通をして下さい。三月號から別に、「誌友くらぶ」をこしらへますから、處女の友についてみなさんの思つてゐること、感じたこと、其からお國自慢、珍らしいお話、みなさんのお希望、書物の交換、その他なんでもかいてよこして下さい。誌上の談話會！ほんとうに面白いですよ。「誌友名簿」は、はがきに住所と名前をかいて送つて下さい。はがきの上には、赤く「誌友名簿」とかいて下さい。御申込順に依つて掲げます。尙直接に手紙を交換する時には、よく處女の友の讀者だといふことをかいて下さい。男の文字の手紙などには、決して返事を出さぬように。

なるべく「處女の友」の誌友くらぶでお話し合つて下さい。

長野縣下伊那郡山本村久米	増田カオル
岐阜縣武儀郡坂の東村	竹腰よさ枝
熊本縣菊池郡淸泉村蛇塚	本山八千代
東京市本所押上町二五〇	西村　チエ
滋賀縣蒲生郡八幡町	、染谷田鶴子
福島縣安達郡戸澤村南戸澤	大内　さめ
群馬縣勢多郡大胡町瀧久保	横澤　よれ
群馬縣利根郡白澤村	中村　たつ
靜岡縣小笠郡東山村大平	松浦　ゆう
宮城縣登米郡石越村	二階堂たかを
埼玉縣大里郡藤澤村	金子　津爾
福井縣三方郡耳村䕃生奥	佐竹　いく
和歌山縣伊都郡高野山	火伏　翠葉
福島縣喜多方町郵便局	佐藤　幸
德島縣那賀郡新野町	兼任ヒサエ
兵庫縣多紀郡北河内栗橋	田中　美智
長野縣東筑摩郡五常村	伴在　多津
愛知縣東加茂郡盛岡村	簗瀬　和
福島縣耶麻郡猪苗代町柿田	土沼たまよ
兵庫縣多紀郡大芋村市野	原田こすみ
高知縣高岡郡樹原村樹原	村田　惠智
福島縣石城郡永戸村渡戸小學校	古澤　まち
群馬縣多野郡神川村森戸	近藤みよし
島根縣簸川郡灘分村	長岡マツヨ
神奈川縣富士瓦斯保土谷工場寄宿舍	宮町　千代
和歌山縣伊都郡高野村字相の浦	佐田　好枝
東京府西多摩郡檜原村數馬	森川　光
福島縣双葉郡浪江町平陽女學校	西内　しよ
同	小林あきら
神奈川縣富士瓦斯保土ヶ谷工場寄宿舍百〇六	岡谷　ゆき
和歌山縣伊都郡花岡村	阪中　シン
新潟縣南魚沼郡大崎村	上村　セイ
岐阜縣武儀郡坂の東村	服部　きく
東京府下龜戸町柳島四一六	後藤　美奈
千葉縣印旛郡富里村中澤	篠原　喜美
德島縣勝浦郡福原村	闕守クマノ
北海道岩内郡岩内鹿畫町二〇八	橋本みのり
福島縣南會津郡伊南村靑柳	馬場　末野
和歌山縣伊都郡紀見村	矢野　あや
同	上野　綾
新潟縣佐渡郡加茂村	樋口　八重
靜岡縣庵原郡庵原村杉山	栗田　きよ
群馬縣勢多郡木瀬村	田代　こく
香川縣三豐郡大野原村	高木　比佐
群馬縣新田郡烏之郷村鶴生田	天笠　かつ
福島縣安達郡澁川村	菅野　好
同　石城郡川前村桶賣小學校	會田　せつ
福島縣若松市五ノ分町六	根元　魏
滋賀縣蒲生郡市邊村布施	中川　さら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

懸賞處女文藝募集

第一種

作文 （田舍の友へ／町の友へ／工場の友へ）
和歌（題隨意一人三首）
俳句（題隨意一人三句）
考へ物（下の題を見よ）
習字（半紙一枚六字）

第二種

處女會の寫眞
田園生活の感想
有利なる副業内職
地方篤志婦人の事蹟
田舍より見たる都會

第三種

處女倶樂部（はかき一人一通）
衛生問答（一人一問）
處世問答（一人一問）

處女文談

二百五十首の中

長野縣　瀧澤やよ子

人の世は四季をり／＼にもたぐふべし　優しくつよくまじめに働け

島根　森脇　操

妹に幾つと問へば笑顔にて　紅葉の樣なお手も愛らし

岐阜　竹腰よさ枝

南天の實の赤いのがことさらにものうれしけれ冬枯の庭

處女くらぶ

○私は今年十九、處女の誇を感じます、毎日小さな子供を相手にたのしく暮らしてゐます。皆樣の御健康を祈ります。（宮城二階堂たかを子）

○「都にあこがれて」一ばんたのしく、あとどうなるでせう房子さんが心配でなりません（千代子）

○皆樣「處女の友」で方々のことを話し合はうではありませんか御賛成下さい、私は東北の山村の農家の娘で本誌を友としてゐるものです（宮城たか女）

○さて私は寒さを凌いで咲く梅をみて

大君の初日のもとに賤が家の梅もうれしく咲きそめにけり

とうたひました。先は先生方御身御大切に（このたよりを出した方お名前知らせて下さい）

○私は「處女の友」の愛讀者です農に生れた仕合せがだん／＼わかつて來ました。（四國の一處女）

考へ物當選

編輯だよりをごらん下さい。

考へ物新題

蛙の虫を食ふ魚は何んといふ魚でせう。〆切二月十八日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

。編輯だより

○たいへんわろい風邪がはやりましたが、皆樣御家族は御丈夫でしたか。此で御見舞を申上げます。中央部一同まづ健在でありますから御安心下さい。

○本會理事跡見花蹊先生の會訓印刷し皆樣に御分ちするつもりでありましたところが、年末印刷所が忙しくごこでも引受てくれません。今月は口繪に揭げました。御希望の方が大勢ありますならば、印刷したいと思ひます。會歌は今少し待つて下さい。

○習字は森脇、奥村樣のもたいへんよく出來てゐました、倘每月募集致ますから送つて下さい。一等賞は今月發表致しました。

○群馬の深谷樣、篠原樣福島の玉木樣、高知の岡崎樣、靜岡の影山樣などからも常におたより下さいます、一同厚く感謝して居ります。誌友名簿のこと御賛成を願ひます。

○前號考へ物「柱に頭をうちつけて」は大分縣であります。三百二十五人の中からくじびきで左の方々に賞品をあげます。

○一月號の口畫はたいへん組み違ひしてすみません。はじめのと、次のと全く說明がちがつてゐました。口畫の裏と裏とあべこべになつてゐました。御わび致します。

○佐竹いく子（福井縣三方郡耳村麻生奥村）△西村チエ（東京市本所區押上町二五〇）佐田好枝（紀伊國高野村大字相ノ浦）△增田カオル（長野縣下伊那郡山本村久米區）△市川一枝（神奈川縣程土ヶ谷町程土ヶ谷紡績※院內）△岡村つれ（山口縣熊毛郡三井村）△田村百合子（東京府下南葛飾郡吾嬬町請地二〇）△根元總子（福島縣若松市五ノ分町六）△深田芳子（兵庫縣多紀郡大芋村福井）△村田惠智子（高知縣高岡郡檮原村檮原）△兆木ミサチ（北海道空知郡三笠山村幌內）△高木比佐（香川縣三豐郡大野原村）△天笠香都子（群馬縣新田郡鳥之鄉村鶴生田）△千葉京子（岩手縣氣仙郡立根村二〇）△小林あきら（福島縣双葉郡浪江平陽裁町縫女學校）

○「處女の友」への注文や御相談についての手紙は本鄉元町の方に願ひます。倘爲替を封筒に入れて書き留でなく送つて下さすつた爲に途中で爲替が紛失したことがありますから是からは、書留で願ひます。振替が一ばん都合がよいのですからなるべくそで願ひます。倘吹く風さむき折柄皆樣御用心なさい。（君子）

處女の友改正定價表

旬月一回一日發行

定價	一部	半年分	一年分
定價	拾五錢	八拾五錢	壹圓六拾五錢
郵税	五厘	不要	不要
合計	拾五錢五厘	八拾五錢	壹圓六拾五錢

廣告料	一頁	半頁
特別面	貳拾五圓	―
普通面	拾五圓	九圓

注意

◎御註文は總て前金の事、前金盡きたる節は封紙に「前金切」と捺印して通知に代ふ◎御送金は振替貯金が最も便利なり◎郵劵代用は一割增のこと◎外國行は郵税實費を申受く

大正八年一月二十八日印刷納本
大正九年二月一日發行

東京市本鄉區元町二ノ六六
發行人 印刷人 田所楠猪

東京市麴町區紀尾井町三番地
編輯人 天野藤男

處女會中央部

東京市本鄉區元町二ノ六六
印刷所 千代田印刷株式會社
東京市□□町十二、三番地

處女の友發行所
電話小石川三一七四番
振替口京六一九〇番

大賣捌 東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、至誠堂、上田屋、其他

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

内務省 天野藤男先生著

□□特價金四拾錢（送料とも）□□

好評三版

特價提供

處女會の組織と其事業

□定價金六拾錢□
□送料金八錢□

本誌の主宰にして、處女會に關する新智識としては當に本邦の第一人者たる天野先生が、其の多年の蘊蓄を傾けて著述された本書は、最も現代に適合する指導方法の下に、而も平易にして明亮に、處女會の組織と其事業に關する一切の事項を詳記せるものであつて、處女會員は素より、苟も之が研究に志す何人も必ず一讀すべき名著である。

内務書記官 社會課長 田子一民先生著

好評十版

小學校を中心とする地方改良

□四六判上製美本□
□紙數三百五拾頁□

□定價金壹圓□
□送料金八錢□

實際的社會問題研究家として夙に令名を喧傳せる著者が、地方改良と其振興の爲に特に述作せられたるものであつて、如何に時代の要求に適應せる名著たるかは、已に〳〵定評ある所である。

□東京市神田區□
□南神保町二番□

白水社

□電話本局四二二三□
□振替東京一一九二三三□

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

青年圖書

大久保四洲著

青年訓話 軍神乃木

著者の麗筆に依りて將軍の面目書中に躍出す

四六版三五〇頁　定價四拾錢　=送料四錢=

青年團員手牒

青年團員必携の信用狀▲總クロース和紙堅牢無比▲青年團中央部編纂
定價拾錢=送料三部迄貳錢

帝國青年の歌

豪壯の歌勇快の曲！▲青年團中央部選▲島崎東京音樂學校教授作曲
定價五錢=送料九部迄貳錢

青年團體操

器具不用且場所を要せず實行簡易　陸軍戸山學校選青年團中央部編纂
定價五錢=送料四部迄貳錢

緬羊の飼ひ方

青年團中央部農業主任和田稔新著　平明懇切總振假名付袖珍形頗美本
定價六拾五錢=送料四錢

青年團指導

青年團改善指導の標準書▲青年團中央部編纂▲菊判三百八十有餘頁
定價壹圓參拾錢=送料拾貳錢

趣味讀本 通俗文學

文部省普通學務局玉井廣平先生著　青年の娛樂用課外讀本として好適
定價七拾五錢=送料六錢

地方青年の教養

内務省監察官守屋榮夫先生著▲青年團員教養に關する新研究の發表
定價壹圓參拾錢=送料拾貳錢

東京市赤坂區溜池町三十一番地
帝國青年發行所
電話芝六二三三番　振替口座東京二一一六八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

○御注文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

内務書記官田子一民先生著（最新刊）

米國婦人と酒戰

◎定價金參拾錢　送料四錢

世界の驚異たる全米國の禁酒法案通過は、現代に於ける最も注目すべき社會運動たり。著者曩に歐米を巡遊し、親しく米國に於ける禁酒運動の由來と其沿革を究め、感慨禁ずる能はざるものあり、歸來筆を呵して此一書を成せり、時歳末年始に際し、飲酒の習俗最も熾んなる際敢て本書を江湖に推薦す。

愛知縣立農林學校長　山崎延吉先生著

婦人の覺醒

（五版）價二十五錢送料二錢

本書は婦人の天職を明かにし、其の自覺に資し、其の向上に後援せんが爲め、著者が滿腔の同情を以て著はされたる者なり。

新民

二月號　一部三十錢

創刊十五年地方振興民力涵養唯一機關

改造時代の歐洲諸國……前田監察官（後藤書記官）

最近の獨逸……清水由隆

國民の教養……澤柳博士

時事論評　新講談　呉鳳靈廟……天野雄彦

生活改善の急務……赤司局長

勞資協調に就て……添田局長

愛國的自制を望む……原敬

噫小松原英太郎氏……一木博士

日本橋より相生橋まで……佐上信一

農村改良の實際……有山正文

勞働問題と新道德……繁田

正食とは何ぞや……村田宇一郎

自治法令の研究……平井良成

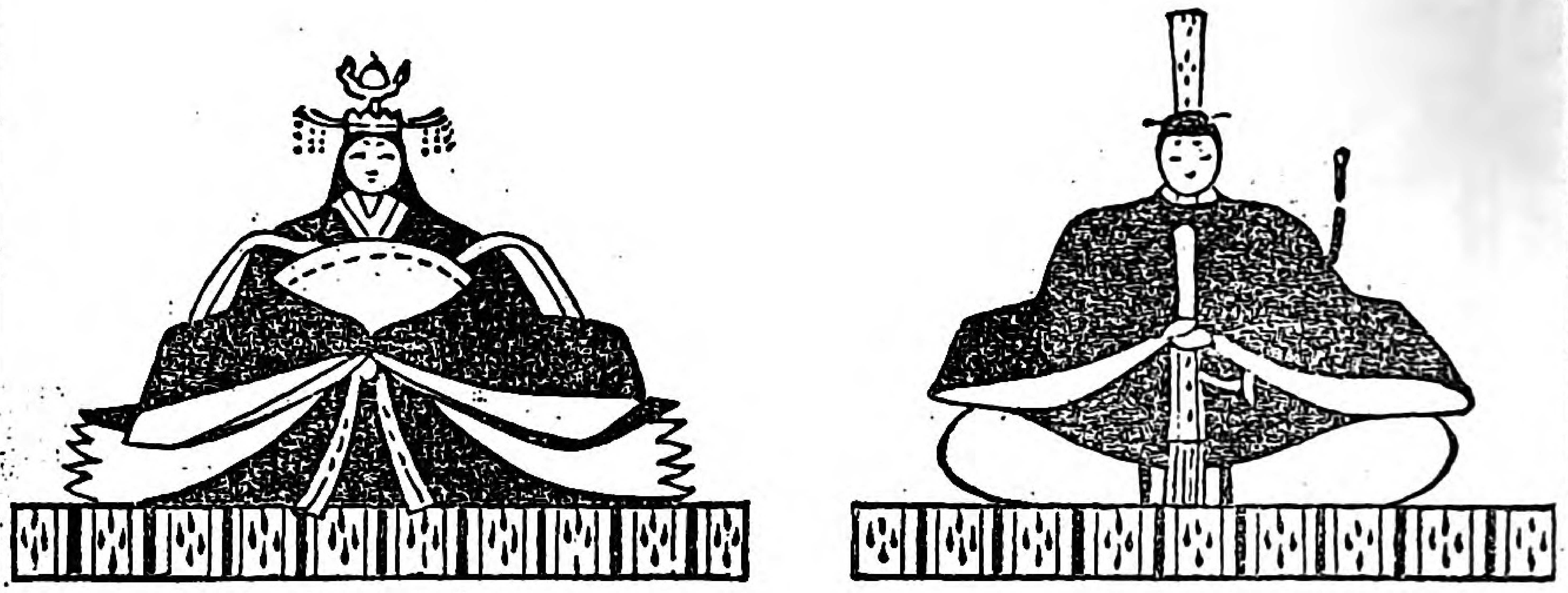
地方改良放言漫語……

報德千話……井口丑二

内務省だより……

發行所　東京市赤坂區溜池町三十一　中央報德會　振替東京九七〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



雛人形陳列會

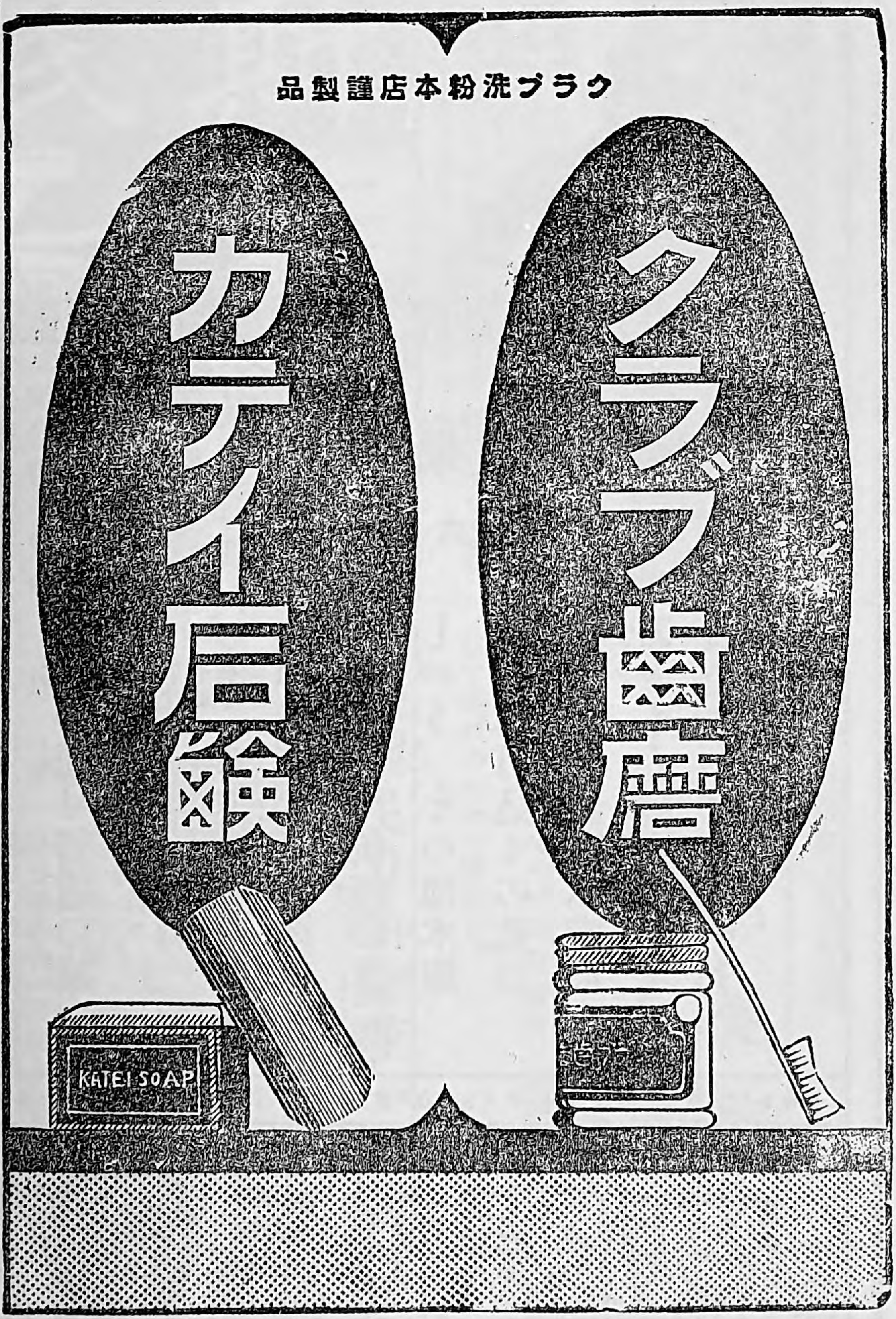
二月一日より六階にて

例年の通り普通の雛人形も澤山御座いますが、特に目新しいものは本年新製の當店特製雛で御座いましやう、その他木彫もの木目込もの及び附屬品一式、六階に賑々しく陳列されて御光來をお待申ます

三越の二月の定休日　一日（第一日曜日）十五日（第三日曜日）

東京　三越呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



大正七年十二月二十五日第三種郵便物認可
大正九年一月二十八日印刷納本
大正九年二月一日發行（毎月一回一日發行）

一部定價 金十五錢

處女會中央部

東京市本郷區元町二ノ六六
處女之友發行所